第二、作戰打合

一、陸海軍協定ヲ行フ場合ハ上級協定ノ意ノアル所ヲ下級司令部ニ了解セシメ置ク事緊要ナリ

(イ)本作戰ハ艦隊司令部P.T.ニ在リSN作戰ニ從事中ノ第十八戰隊ヲ急遽R.R.ニ回航セシメラレ艦隊協定覺書ニ基キRR.ニ於テ陸海軍協定ヲナセル所陸軍ハ最初協定覺書ノ解釈ヲ廣義ニナシ各種ノ要求ヲナシタルニ際シ艦隊司令部ノ眞意ヲ照會スルヲ要シ延引セリ

(ロ)電報ヲ以テスル照會ハ此ノ種機微ナル事項ニハ其ノ意ヲ盡サス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

二、艦隊軍司令部間協定ヲ遠隔ナル地ニ於テ行フ場合ハ参謀ヲ特派スルヲ要ス

(イ)、陸軍輸送船被害對策ニ関シ軍司令部艦隊間PTニ於テ協議シ軍司令部ハRRニ進出第十八戦隊ト引續キ協議セシメラレタルニ軍司令部ノ要求ガPTニ於ケルトRRニ於ケルト相違シ混雑セリ

(ロ)、之ガ爲七月二十六日ノ第二次輸送ヲ二十七日ニ延期セルモ遂ニ艦隊ヨリハ指令セラレス當部隊ニテ決行スルノ已ムナキニ至リタルト共ニ廣德丸ノ使用ニ関シ艦隊司令部ノ意ニ反ス(事後了解ス)ルガ如キ不都合ヲ生起セリ

(ハ)、此ノ場合艦隊参謀一名軍司令部ト共ニRRニ出張スルヲ得バ實施中ノ作戦進捗上好都合ナレレモノト認ム

第三輸送船ノ配属

一、略ボ均等速力ノモノヲ揃ヘルト共ニ敵機及敵潜活動圏内ニ作戦スル今回ノ如キ場合ハ少クモ十四節以上ノモノタルヲ要ス

(イ)リ號研究作戦ニ於テハ左ノ如ク著シク不揃ナリ

海軍　金龍丸（十五節）　廣德丸（十三節）
　　笹崎丸（十五節）

陸軍　綾戸山丸（十七節）　良洋丸（十七節）

(ロ)第一次輸送時ノ如ク敵高々度爆撃機ノ連續来襲ニ際シ防御砲火不達ニシテ回避ニ依リテノミ被害ヲ逸カレムトスルモ十四節以下ニテハ舵ノ利キ悪ク成功ヲ期シ難シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

二、小型優速船（海上トラクター等）ノ利用ハ緊要ナリ
RRヨリ遂次RAF方面ニ小型優速船ヲ以テ補給
輸送ヲ継続スルハ被害防止上有利ナリト認ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第四 驅潜隊ノ能力

十四節探信航行可能ナラバ利用價値極メテ大ナリ

(一) 現狀ニ於テハ十二節ヲ限度トスルモ對潜對空顧慮上船団ノ十二節航行ハ極メテ不利ナリ

(二) 第一次輸送ニ於テ第十八戰隊航過ノ直後ニ於テ潜伏中ノ敵潜ヲ第二十八號驅潜艇ハ克ク探信捕捉之ヲ撃沈セリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第五陸軍輸送船

協同作戰ニ參加スル陸軍輸送船ニハ萬難ヲ排シ海軍將校ノ監督官ヲ配員スルコト緊要ナリ

(イ)事前綿密詳細ニ協定セシニ拘ラズ綾戸山丸被害ノ狀況ハ全々通報セス

(ロ)荷役ノ狀況ハ一切通報セス良洋丸ハ荷役ヲ打切リ出港セルヲ以テ殘量等ヲ予知スルハ爾後ノ作戰ニ至急ノ聞聯アルヲ以テ特ニ近接再三照會セルモ應答セズ

(ハ)事前打合會等ニモ定時ニ參集セズ又航海能力等ノ緊要要目ヲ照會スルモ回答セズ其ノ他協同上遺憾ノ点多シ特ニ陸軍ハ揚陸セバ幹

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

部ハ總テ退船スルヲ以テ連絡ハ杜絶スルニ至リ
事後ノ護衛ニ支障アリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(四)作戰指導

(イ)機密支援部隊命令作第一二號ニ基キ一日〇八三〇頃輸送船隊(第一護衛隊護衛)ノ東側ニ出テ同日一二〇〇以後機ヲ之ガ東方五〇浬ヲ第六戰隊(小隊ト共ニ並行針路一四五度速力十六節ヲ以テ警戒南下セリ

(ロ)一日一二〇三南洋部隊電令作第二三二號(一日〇九三〇發令)ニ依リ作戰方針ノ変更ヲ知リ其ノ企圖RX東方及南東方ニ對スルFAGノ哨戒攻撃圏ノ拡延強化及R、RX方面航空基地ノ縱深化乃至分散化ニ在リト判断ス

(ハ)二日自〇六〇〇至〇八〇〇南緯〇度三五分東経一五九度一〇分附近ニテ寶洋丸ヨリ曳航補給(天龍ニ一〇発 龍田ニ一五発)

(ニ)南洋部隊電令作第二三九號及聯合艦隊参謀長申進

(聯合艦隊機密第五一八番電)ニモ鑑ミ七月四日(米國独立祭)前後ニ於ケル敵ノ機動ヲ警戒シ諸情報ヲ綜合シ極力之ガ動靜企図ノ察知ニ努メ三日現在ニ於テ當面ノ敵情概ネ左ノ通ト判断シアリタリ

(1) 陸兵(又ハ海兵)ヲ以テスル要地奪還ハ敵基地航空圏内ノRZT方面ニ企図サレRX及R方面ニ對シテハ其ノ算殆ンド無シ

(2) 一時RR方面ニ蠢動シアリシ敵潜水艦ハ目下交代ノ機ニ當リ僅ニ二三隻程度RXB方面ニ伏在スルニ過キス且其ノ一隻ハ一日〇四〇〇頃駆逐艦秋風ノ攻撃ヲ受ケ撃沈セラレタル如シ 但シSN作戰ノ進捗ニ伴ヒ敵潜水艦ノRZM、RR、RO方面再配備ハ之ヲ豫期セサルベカラス

(三) 米哨戒艦艇ノRYQ RYM方面ニ在ルハ確實ナルモ有力部隊存在ノ算亦無レトセズ RXJ、RXQ方面飛行哨戒艦(飛行艇母艦ヲ含ム)程度ノ艦艇若干隻アル事略確實 濠洲東岸珊瑚海方面英艦艇若干隻行動シアル事確實ナルモ哨戒ヲ主トセル特設艦艇ナルヤノ算アリ

(四) 航空兵力ハ漸次強化サレアル如ク特ニ彼ガRXQ RXJ方面ニ攻撃(哨戒)基地ヲ展開セルハ顕著ナル敵情ナリ

(六) 三日〇五〇〇N点(25°S 160°30'E)ニ達シ部隊東方二〇〇浬ノ飛行索敵ヲ行フモ敵ヲ見ズ機宜行動中同日二二五敵空母ノ南下西進シアルヤノ室候アリトノ無電諜報(六通機密第九七番電)ヲ得RXB方面RR方面数日間特ニ厳戒ノ要アリト判断ス 尚三日乃至六日黎明時

戰速即時待機第二警戒配備下令自隊ノ對敵警戒ヲ嚴ニス

(ヘ)四日〇三〇〇部隊西進「ヌマカナマ」島ニ向フ(月途SL作戰支援泊地ヲ得ルニ在リ)

一〇一七友軍哨戒機ヨリ「〇九三五敵ヲPiノ二〇〇度三五〇浬ニ發見」ノ電アリ奥甫準備第一法ニ戰速即時全力三十分間待機トナス

尓後同哨戒機ヨリ「一〇一五觸接ヲ失ス」「敵針九〇度速力一六節」「敵兵力空母一巡洋艦ニト相次デ電アリタレモ觸接交代機ノ再度捕捉ノ算尤分且第四空襲部隊ノ一擊ヲ確實ト判断シアル処依然部隊西進ヲ續クルヲ以テ當夜ノ夜戰轉入ヲ可能ナラシムベク支援部隊ノ東方進擊ヲ意見具申ス

支援部隊ハ信令ニ依リヌクマヌ島ノ飛行偵察實施ノ上

昏早朝「タウウ」島ノ北方六〇浬ニ至リRRノ東方三五〇浬附近ヲ警戒行動シ敵分進(第應)隊ノRR方面奇襲ニ備フル如ク行動セリ

(ト)五日〇〇三〇PY南方ノ敵ハ哨戒機ノ誤認ト判明部隊ハ豫定ヲ変更シRXAニ向フ途上一二四五友軍大艇我ヲ敵巡洋艦戦隊ト誤認電報ス

一六三〇RXA入港寶洋丸ヨリ補給(天竜二九五発 富田二九〇発)警戒碇泊

(ヘ)六日〇四三〇RXA出撃「ルカタ」泊地(イサベル島北西部)ニ向フ

「六日二〇〇〇敵潜水艦ノ方位RRノ一二四度」(八通情報)ニ依リ入港前特令シテ対潜警戒ヲ厳ニス

七日〇五四五泊地外方着掃海隊陸上掃蕩隊ヲ發進ノ後泊地外方対潜移動哨戒ニ任ズ　一三〇〇入港警戒碇泊(第西部備別法)水域樺甫其ノ他障碍物ノ設置

ヲ認メズ陸上ニ住民及敵性施設ヲ見ズ

(リ)八日、〇二一五 大同丸(六根砲艦)PIYノ西九度一七〇浬ニ敵飛行機ヲ發見セルモ爾後関聯電報ナク翌一〇、五〇〇泊地掃海及同調査ヲ行ヒ一六一〇丈援部隊信令第二一三號ニ依リ「レカタ」泊地發RRニ向ヒ同地ニテSN作戰支援對勢ニ在リタル仏特令任務(リ)號研究作戰準備ニ任スル事トナレリ、

九月〇八三〇頃「セントレヨーナ」岬ノ東方六〇浬附近ニテ偏彈射擊(第一)ヲ實施セル外高速(三四節)之字運動ヲ行ヒツツ一五〇〇RR着發戒態消(第四郵備別法十六節一時間待機黎明薄暮時第三郵備別法)同日夕刻RZM基地ヨリ「敵機一RR方面ニ向フ」トノ情報アリ(自一九三〇至二〇三〇)第一郵備十六節即時待機ニテ警戒スルモ敵ヲ見ズ

(ヌ)十一日 南洋部隊電令作第二五三號ニ依リSN作戦部隊ヨリ除カレRZJ攻略部隊ヲ編制之ガ指揮ニ任ジRRニ在リテ「リ」號研究作戦準備ニ專念ス

(ル)十四日 第八艦隊編成第十八戦隊ハ同隊ニ編入サレ外南洋部隊トナル(作戦指揮ハ第四艦隊司令長官續行)

(ヲ)自二十日至二十四日 第一次輸送(兵力RZJ攻略部隊(十五設營隊 管崎丸 広徳丸 他)護衛隊(陵戸山丸 良洋丸))

(ワ)二十七日 第八艦隊長官外南洋部隊ノ指揮継承

(カ)自二十七日至三十日 第二次輸送(兵力 護衛隊指揮官 竜田艦長 艦隊 夕月 三隻 駆潜隊(三十八号 他) 広徳丸 良洋丸)

(ヨ)其ノ他RZJ攻略部隊戦斗詳報第一號第二號所報通

(タ)自六月三日至七月十日 第十八戦隊行動図 別紙第一

二、人員ノ現狀

(イ)司令部職員

職	主要任務	官	氏名
司令官		少將	松山光治
參謀	一般補佐	中佐	篠原多磨夫
同	運輸補給修理機関工作	機大尉	恒住一夫
同	通信諜報、運動気象	大尉	星野清三郎
附	暗號一般	兵曹長	辻亀三

(ロ)下士官兵其ノ他員數

科別	兵科	主計科	其ノ他	計	部事
員數 下士官	七	三	/	一〇	
員數 兵	八	二	/	一〇	二〇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(八)麾下總員數

種別	員數
士官	二九
特准	三四
下士官	一五八
兵	五〇〇
其ノ他	六
計	七二七
部事	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

三、令達報告等

發信元	日時	受信元（通報）	日時	令達報告等	種別
大海三部長	〃一六五〇	〃	〃一四三〇	大海機發第九三五番電 独海軍作戰情報 無線諜報ニ依レバ豪洲空軍ハ六月二十四日二二一五ヨリ豪洲海北東岸ト「コーラルド」海域ニ於テ敵潜カノ作戰ヲ開始セルガ右ハ潜力部隊ノ協同作戰ト推定セラル	〃
〃	〃一四〇〇	〃	〃一四三〇	〃	〃
〃	〃一四一五	〃	〃	十八節即時、二十四節一時間待機トナセ	〃
〃	〃一四一五	〃	〃一四三〇	ツラギ基地機發第一〇三番電 「カビツ」ノ一八〇度二〇粁ノ地点ニ怪シキ発光信号ノ如キ灯火ヲ認ム 北光秋影ヲ視認セズ 空襲中ニテ敵機ハ潜力部隊ト交信セルモノ如シ、厳重監視中ト	〃
先遣部隊指揮官	〃一四〇〇	〃	〃一四三〇	〃 先遣部隊機發第九六番電 先遣部隊電令作第九六号 3SB DO BYQ BYN BXS方面作戰ノ件	〃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

三、令達報告等

發信日時	受信日時（通報）	令達報告等	摘要
昭一一〇二〇	〃〇八〇〇	9F機盛第四九一番電 通信情報 茲ニバ敵ハ豪洲東岸方面ニ兵力ヲ集中又「アリューシャン」群島方面ニ有力ナル部隊ヲ集結シアルモノ如シ 昭一四一八米國独立記念日ニテモアリ各方面警戒ヲ要アリト認ム	
サ4 9F	〃米 サ2 9F 各 火海一部長		
〃〇九二〇	〃一二〇三	4F機盛第六一三番電 南洋部隊電令作第二三二號 「RXM」「RXA」符送件	〃
P 4F	南洋部隊 各司令官		
〃〇九二〇	〃一二三五	9F機盛第七二六番電 南洋部隊電令作第二三三號 通信課報ニ依レバ豪洲東岸兵力集中及米独立記念日ヲ期シ警戒ヲ厳ニスベシ	〃
〃	南洋部隊 米 P 9F 6F 11AF 各		
〃一〇二〇	〃一二三〇	8BJ機盛第七八九番電 R方面防備部隊電令作第一三二號 「ロ」號兵力部署中「RXE」ヲ備隊ヨリ五根派遣隊ヲ除リ件 「RXA」ニ陸戰隊ヲ楊陸同市掃蕩防備及飛行場調査設營ニ協力スル件	〃
P 8BJ	R方面防備部隊 米 サ2 9F 11AF		

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃 一七三五 P	185	〃 〇一二〇 P 11AF サ4 9F 4F	〃 一二四〇 南洋部隊 各司令官 米 P 9F 右 11AF	〃 〇八三〇 P 4F
〇三三〇以後十八節即時平西節一時間待機トナセ	以下略	185F 機密第七二四番電 第五空襲部隊戦斗概報（第八二號） 大艇二機ヲ以テ哨戒ヲ兼ネ「ウメ」「サンタクロース」諸島偵察件	4F 機密第六一九番電 南洋部隊電令作第二三六號ノ 第十九戦隊（常盤欠）他錨泊特一ヶ中隊 K方面防備部 隊編入「KZM」ニ増強ノ件	169 機密第八七番電 米通信情報 尤記諸項ヨリ推定スルニ米大平洋艦隊旗艦「ハワイ」出撃セル 気配アルモノ如シ又敵ハ近ク「アリューシャン」群島及豪洲方 面ニ何等カノ策動ヲ企図シアルモノ如シ因ミハル（以下略）
水		1000	〃	〃

〃 〇七二〇 169	〃 一六〇五 P 青葉	
〃 一四〇〇 南洋部隊 各司令官 P 4F	艦	
信令第一九六号 今明日左ニ依リ作戦ス敵「P B」ニ対シ警戒ヲ厳ニスベシ 八〇〇計四K〇五〇〇以東ニテ第四任務機發進後方八〇計 一六K〇七〇〇右及転方〇〇一二〇〇方ニ七〇八〇方一五〇計一二K		
〃	二	

〃 一二二五	〃 一二三五	〃 一三三五	〃 三日 〇五三〇	〃 〇八三〇	〃 一九〇〇	大海特務班長	〃 一一三〇	大海参一部長
〃	〃	〃 一九一〇	185	〃	〃 〇九五〇	南洋部隊令官、北方部隊サモアF、各指揮官	〃 各鎮、各警各F各サイ	185
機関待機ヲ解ク	〇三三〇以後第四節即時待機 第二警戒配備トナセ	809機盛第三四九号電 通信諜報ニ依ル南洋方面敵情判断 ハ空軍ニ艦船（以下略）	第三警戒配備トナセ	十八節即時第四節一時間待機トナセ	大海機盛第九六二号電 通信諜報ニ依ル敵情 南北両方面共ニ日米敵策動シツアル非候濃厚ナリ ハ南方々面ハ北方々面ニ印度洋方面	大海機盛第九六九号電 南支那方面米英義勇飛行隊日本近海潜水艦本土ニ英領ニテ「ギニヤ」「ロモン」「ナモール」外占領地ニ於ケル警戒ノ件	十八節即時第四節一時間待機トナセ	信令第一九號 明日左ニ依リ作戦ス敵「B」ニ対シ警戒ヲ厳ニスベシ「〇〇〇〇」方ハ「〇五〇〇」ハ夫ニテ第四区務機第六三線発進「〇六〇〇」方
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃 一六三〇	185	〃 二一三五 南洋部隊司令官 通信部隊指揮官 中佐大 海特務班長	609	〃 一月四日 五五〇	185	〃 一〇六一〇 青葉	〃 一〇三七	185
二二〇「計」一六K一〇〇〇二K〇五〇〇「又」島西端着 〇四六〇以後十八節即時三十四節十分間待機 第二警戒配備トナセ	キ	1000	609機盗第九七号電 米飛行機出現状況 （以下略）	第二警戒配備トナセ	信令第一九九號 本日ノ行動予定左ノ通改ム 一、第四位務機ヲ取止ム 二、第五位務機ハ「又」調査ノミトシ一〇三〇發進一二〇〇頃「又」島西端ニ到レ一三三〇項飛行機揚収機宜行動明朝〇五〇〇「又」島西端ニ達スル予定	二	三十四節即時十六節十分間待機トナセ	三十八節十分間待機トナセ
敵ランキモノ見ユ	1000	〃	〃	キ	三十四節即時十八節三十分間待機トナセ	〃	〃	〃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃 一〇〇四五	〃 一一〇〇	敵ラシキ艦影ヲ認ム「ヤルート」ヨリノ方位三〇〇度三五〇浬	〃
〃 一一四〇	〃 一一〇〇	敵ノ空母艦一隻巡洋艦二隻	〃
〃 一〇一五	〃 一一〇二	我觸接ヲ失フ	〃
〃 一〇〇〇 四AB指揮官	〃 一一一〇	4AB機發信二四通電 一〇九四五「イミエド」ノ一二〇度三五〇浬敵ラシキ艦影ヲ認ム 二、第二部隊ハ陸攻隊全力即時待機トナセ（第一号裏）	〃
〃 一〇四五 H晴巡第二索敵線進行機	〃 一一一五 南洋部隊	敵針九〇度敵速十六節	〃
〃 一一五〇 P	〃 一二〇〇 青葉	今後、敵情ニ依リテハ今夜々戰ヲ決行シ得ル對勢ニアリト判断スト雖モ迂遠東方ニ進出セラレテハ如何	〃
〃 一六一〇 サ4 9F	〃 一二〇〇 P 9F各サ4 9F各 米大海一部長	9F機發信五八八通電 七月三日大平洋方面敵情綜合 北方方面ハ市哇方面ニ、豪洲方面（以下略）	〃
〃 一〇二〇 P 4F	〃 一二〇〇 南洋部隊	4F機發信一〇八通電 南洋部隊電令作第二四〇號 敵情ニ鑑ミ「ガダルカナル」上陸ヲ一時延期セシムル件	〃
〃 一一四〇	〃 一二三〇 米 P 9F 6F AF 軍令部次長	4F機發信三二九通電 南洋部隊電令作第二四〇號 一〇九三五項ヲルート」ニ〇〇度三〇〇浬ノ敵航空母艦一隻巡洋	〃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

	〃 P 一三五〇	〃 P 一四〇〇 青葉	〃 一四五 P/GF
	185ツ 青葉	艦 〃	〃 一四三〇 P/GF 各ツ 南洋部隊
強ニ変ヲ認ム針路九〇度速力十六節（大艇報告） 二、敵ハ大型機ヲ發艦味方ノ要地ヲ奇襲スルカ又ハ明日五日早朝要地ニ来襲ノ算アリ 三、「トラック」「ポナペ」「マーシャル」方面特ニ警戒ヲ厳ニセヨ	信令第一四六號 十八節即時二十四節十五分間二十八節二十分間待機トナセ	信令第二〇〇號 一、ヤルート南方ノ敵「RB」ハ七月五、六日頃マーシャル方面ニ来襲スル算アリ之ニ策応スル他ノ機動部隊ハ「RXB」又ハ「RR」方面ニ来襲ノ算ナシトセズ 二、當隊ハ今後「RR」東方三五〇浬附近行動明朝「タウ」島北方六〇浬附近ニ達シ基地航空部隊ト策応敵機動部隊ニ備ヘントス 三、八〇〇速力十二節二〇〇針路三五度 四、日没後六戦隊發射管魚雷第一状態 五、明五日ノ「又」掃海ヲ延期ス 六、六戦隊八〇以後二十四節即時二十八節一時間待機	GF機密第五一九番電 GF電令作第一七八號 一、一〇五第十一航空艦隊哨戒機「ヤルート」ノ二〇〇度三〇〇浬附近ニ敵ラシキ空母一、巡洋艦二隻ヲ認ム 二、基地航空部隊先遣部隊南洋部隊ハ之ヲ警戒ス 七三
	キ	二	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃一四二八 P	18S	十八節即時二十四節二十分間待機トナセ	キ	〃	〃	〃	〃
〃八四〇 P 26SF	〃二二三五 P 11AF 第 9F 4F 6F P 6BG 8BG 25SF 26SF	26SF機盛第六六四電 第四空襲部隊戦闘機報第九二號 本日ノ十四航空隊雷行艇ニ依ル敵發見ハ誤認ト認ル件	日没ヨリ夜間準備第一法トナセ	キ	〃	〃	〃
〃〇九〇〇 8CG	〃二二五五 8CG P 11AF 4F 8BG	8CG機盛第六一番電 「AA」ト直接交信セル「RR」ノ測定方位二八度（精度良） 右ハ大平洋方面ニ救送ヲ指定シタル長文電報ニ通ヲ送信セル 鑑ミ「ヲ」「ビ」方面ニ有力ナル艦（隊）アルモノト判断セラル	〃	〃	〃	〃	〃
月五日 〇八二〇 P 9F	〃〇二五〇 P 9F各 ツラ南洋部隊	9F機盛機第五二一番電 9F電令作第一七八號ヲ取消ス	〃	キ	〃	〃	〃
〃〇五三〇 P	18S	第二警戒配備トナセ	キ	〃	〃	〃	〃
〃〇五四九	〃	二十節即時二十八節一時間待機トナセ	〃	〃	〃	〃	〃
〃〇六〇五 P 青葉	艦	信令第二〇一號 「本日一六〇〇「ヲエタ」入泊第二次補給ヲ行フ 開始予定時刻十八戰隊入港直後六戰隊日出後後令 （以下略）	〃	〃	〃	〃	〃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃 P 4F	南洋部隊各司令官 SN作戰部隊	4F機密第五八番電 南洋部隊電令作第二四二号 第一護衛隊ハ情況特ニ変化ナケレバ明六日「カダルカナル」泊地ニ入泊スル如ク行動スベシ					
〃一五二五 P 青葉	艦	信令第二〇三號「キエタ」警戒隊泊ニ関スル件	〃	〃	〃	〃	〃
〃一六〇〇 P	185ツホ 青葉	信令第一四七號 第四警戒配備別法(〇四一五より〇五〇〇迄)第二警戒配備 別法(十二節三分間待機)	テ	〃	〃	〃	〃
〃二二〇〇 P 青葉	飛 米空母 SN 榴海隊	信令第二〇四號 明日〇四三〇ニ一番隊順序ニ出動ス後六戰隊ニ十節即時	ホ	〃	〃	〃	〃
〃二三四〇 P	185ツホ 青葉	明日〇四三〇以後十八節即時 三十四節一時間待機	〃	〃	〃	〃	〃
〃月六日 〃〇四四三	188	爆雷準備第一法トナセ	キ	〃	〃	〃	〃
〃〇四五〇 P 青葉	飛 〃	信令第二〇六号 行動予定表ノ通定ム 獲口出港後令無クシテ第四警戒飛行序列針路一六五度速力二二節〇四〇〇針路二一五度速力十六節〇六〇〇(レ)湾口着	〃	〃	〃	〃	〃
〃〇五〇三 P	185	第三警戒配備トナセ	キ	〃	〃	〃	〃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃 一七一五	185	〃 二二一〇 南洋部隊各司令官 大綱特ハ班長	〃 二五〇 185	〃 〇七日 〇七一〇 185 采 青葉	〃 〇七二六 〃
明日〇四〇〇ヨリ〇五〇〇迄第一警戒配備トナセ		869機密第二八〇番電 コンテカレドニヤ方面敵空軍ノ動靜ニ就テ	無線諜報ニ依レバ二〇〇〇敵潜ノ形「RR」ノ二四度ニ在リ特ニ對潜警戒ヲ嚴ニセヨ	信令第一四八號 左ニ依リ「」掃蕩ヲ行フベシ 一、準備出来次第出發 二、各艦約二〇名乘組ノ火艇「カッター」各一 三、旗艦「ジュナベナ」諸島一〇〇哩ノ海域ノ形其ノ附近離島	信令第一四九號 一、掃海隊使用電波「コッ四」 二、使用情報書報復換密表第一號 三、敵情又ハ保安上特ニ要スル場合他電波ヲ輸射ルモノトス
小		1000	小	テ	〃

〃 〇七四五 青葉

艦

信令第二〇八號 一、六戰隊ハ掃海終了迄此ノ附近ニ漂泊ス十八戰隊ハ司令官所定トス 二、錨位ヲ青葉(一)加古(二)十八戰隊(三)(四) 三、對潜警戒ヲ嚴ニスベシ

タ

〃 一二二〇	〃	信令第二〇九號 ロタ「警戒態勢八五」外信令第二〇二號ニ準ズ (一)毎日〇四〇〇(〇八〇〇)警戒配備及待機ハ六日ノ通(以下略)	〃				
〃 一三二〇 P	185 青葉	信令第一五〇號 (一)第四警戒配備別法(〇四〇〇ヨリ一五〇〇迄第二警戒配備別法) (二)〇四〇〇(〇八〇〇)十二節十五分書間十二節三〇分其ノ他十二節一時間待機	テ				
〃 二一三〇 P/195	〃 二二五〇 P/4F P/809	一六〇〇「ラエ」ノ東方二五浬ニ於テ敵潜ノ艦ヲ發見爆雷攻 東又多量ノ油湧出シ効果確實ナリ(195機發第五〇五番電)	〃				
〃		機發第十八戰隊命令第二〇號(別紙ニ枚)	本書				
月八日 〇二一五 大同丸	〃 〇三四一 南洋部隊	敵飛行機〇二一〇東經一七一度北緯二度四〇分	〃				
〃 〇九三〇 P/4F	〃 一二一〇 南洋部隊	4F機發第六五八番電 支援部隊指揮官ハ十八戰隊ヲシテ「RR」ニ向航セシメ次期作戰ノ準備ニ從フセシムベシ	〃				
〃 一三二〇 P 青葉	艦 〃	信令第二一二號 十八戰隊ハ南洋部隊電令作第二四七号第二項ニ依リ行動ス	テ				
〃 一四〇五 P	185 青葉	信令第一五一号 一六一〇「RR」ニ向ケ出港ス 同時刻迄十八節即時ニ十四節一時間待機爆雷準備第一法トナセ	〃				

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃 一五五五	〃	平節即時待機トナセ、第二警戒配備トナセ	〃
〃 一六一四	〃	第三警戒配備トナセ	〃
〃 一六三五	〃	〇四〇〇以後平四節即時待機、第二警戒配備トナセ	〃
一月九日 〇四〇五	〃	一齊回頭之字運動、A法時刻法始メ	〃
〃 〇四五七	〃	信令第五二號 一〇五〇〇第三警戒配備 二〇九〇〇戰斗教練実砲第二回射撃教練（使用弾教第六、所定位置ニ就カバ教練開始迄適宜蛇行運動ヲナセ）	タ
〃 〇七三八	〃	松栄丸戰没將士英靈ニ対シ總員上甲板ニ整列黙祷ヲ捧スベシ（喇叭水漬ノ扉一回）	テ
〃 一三二一	〃	之字運動止メ	キ
〃 一四一四	〃	機銃待機ヲ解ク	〃
〃 一一〇〇	支後部隊各司令官	309機巡洋山〇九多電第特設部隊ヲレキモ（ZZ三三・ZZ三K・WDZH）ヲライジーニヨウヘガライズ方面ニ移動中ト判断セル ニヨーヘガライズ方面哨戒機群ノ出現ト関聯シ何半カ行動ニ出ズル算アリ	〃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃 一四二五	188 米809	信令第一五四號 當地ニ於ケル錨地ヲ左ノ通定ム 天竜中島(61)ノ三三度ノ四杆 竜田天竜ノ一三三度五〇〇米	テ	〃 一四四〇	188 1	第三警戒配備別法十二節三十分間待機トナセ	ト
〃 一七二〇	〃	信令第一五五號 一、第四警戒配備別法(黎明薄暮時各一時間第三警戒配備別法)特ニ対潜警戒ヲモ嚴ニスベシ 二、十六節一時間待機トナセ 三、警戒ニ支障ナキ範圍ニ於テ各自六時間以内ノ陸上見張ヲ許可ス服装第二種軍装	〃	〃 一八四五	飛	(サラモア)ヨリ敵味方不明ノ爆音聞ユ「R」方面ニ向フモノ如シ一七四二	〃
〃 一八五〇	188	信令第一五六號 一、「R」ヨリ一七四〇「R」方面ニ向フ爆音聞ク 二、一九三〇ヨリ二〇五〇迄第一警戒配備別法トナセ	〃	〃 十日 〇九四〇	〃	信令第一五七號 一、左ノ要領ニ依リ稲妻波ノ塗粧ヲ行フ可シ イ、現行擬装下方船底ヲモ白ノ線限界ヲ抹消ス 二、實施時機 重油補給ス	テ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃一二三〇	〃一六三〇	4F機密第八八九番電 南洋部隊電令作第二五一號 第八根隊編入ニ伴ヒ聯合根隊兵力部署中改正セラル要旨
〃一三三〇	〃一六四〇	4F機密第八五一番電 南洋部隊電令作第一五二號ト
〃	南洋部隊 各司令官 金龍丸根長	八金龍丸ハ成ル可ク速ニ「RR」ニ回航185 389司令官ト連絡シ「ラバウル」研究作戦ノ準備ニ供スベシ 389司令官ハ金龍丸「RR」回航中対要ノ地点ヨリ便宜護衛根ヲ派遣スベシ
〃一八二九 P	185 栄室洋丸 389	信令第一五九号 当隊補給ハ右廠入港直後(十一日午前ノ予定)同根ヨリ行フベシ
テ	〃	

(註)
以下RZJ攻略部隊戦闘詳報第一、第二號参照

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

四参考

(一) 戰訓　別紙第一

(二) 諸調査事項

(イ) 對景図　別紙第二

(ロ) 夜光度調査表　別紙第三

(ハ) 海流潮流調査表　別紙第四

(ニ) 高層気象観測記録　別紙第五

(ホ) 浮上り現象調査表

四	昭和	三月	廿一	日到着	第一艦隊	第一艦隊	8-A	於瀬	大瀬	香港
ツーロクシ	ハ一ニ〇ニ	ニ〇ニ〇ニ	ハ一ニ〇ニ	ハ一ニ〇ニ	〇ニ〇〇	〇ニ〇〇	〇ニ〇〇	〇ニ〇〇	〇ニ〇〇	〇ニ〇〇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

七、戰訓

第一 基地航空部隊ニ關スル事項

一、MO攻略戰ノ現狀ニ於テハ再三ノ所見ノ通艦艇ト基地航空部隊トヲ統一指揮スルヲ緊要ナリト認ム

(イ) 本作戰ハ味方遠距離基地ヨリスル飛行機ノ警戒ニ依リ艦船進出シ揚陸シ然ル後敵地ヲ占領整地燃料ヲ輸送シ飛行基地ヲ順次轉進シツツ進擊スルモノナルヲ以テ二本建ニテハ結局時機ヲ失シ易シ

(ロ) 艦隊司令部ハ勿論實施部隊ニ於テモ事毎ニ陸軍ト航空部隊及護衛隊間ニ協定ヲ要シ一回ノ輸送ヲ行フニモ決定迄ノ要務極メテ煩雜ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(ハ)航空部隊トシテハ他ニ重大任務アル次第ニシテ上陸点ノ制空ノ如キハ次等ノ問題ナル所今次ノ「ブナ」ハMOニ近ク敵来襲容易ナルノミナラズ泊地ノ状況極メテ不良ニシテ爆撃回避ニ不適ナルヲ以テ専心泊地制空ニ肩ル航空部隊ヲ一時統一指揮スルコト肝要ナリ

二、MOニ遠征其ノ根源ヲ撃破スルノミニ専念スルコトナク攻撃機ハMOノ夜間攻撃ヲ行ヒ戦斗機ヲ以テ上陸点附近ニ敵ヲ邀撃スルニ努ムルハ航空作戦上有効ナリト認ム

(ハ)輸送船及上陸部隊ハ敵機吊リ出シノ餌トナリ敵機ハ連續上陸点ニ反覆来襲スルヲ以テ

之ヲ我ガ戦斗機ニテ邀撃スルハ實効大ナリ

(ロ) MOニ於テ爆撃セバ飛行機ノミヲ破壊シ得ルニ反シ邀撃セハ搭乗員ヲモ消耗セシメ得

(ハ) 本作戦開始以來MOニ於ケル實効殆ドナキニ反シ泊地附近ニ於テ七月二十五、二十六両日P39ニ機B17一機B25三機撃墜B25数機ニ大被害ヲ與ヘタリ

三、「ブナ」ヨリスル上陸作戦ニハ一層大ナル航空兵力ヲ移動集中シ泊地制空ニ任スル事肝要ナリ

(イ) MOノ攻撃及泊地ノ制空ヲ行フヲ要スル實情ナルヲ以テ必要ナリ

(ロ) 味方基地ハ上陸点ヨリ百浬以上ニシテ日没直前ノ掩護不能ナリ差當リ水上戦斗機ヲ附近ニ進

出セシムル事絶對ニ必要ナリ

(ハ) 味方「ラエ」基地ハ天候不良ニシテ發進不能ナル時多キノミナラズ敵ハ概ネ来襲可能ナリ

(ニ) 味方ハ「ラエ」ノミナラズ「ガスマタ」ヲ使用スルコトヲ得

(ホ) 第一次輸送ノ際ハ「ラエ」天候不良ノ爲船團ノ掩護不充分ニシテ綾戸山丸爆撃ヲウケ火災其ノ他各艦船再三爆撃ヲウケタリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第二作戰打合

一、陸海軍協定ヲ行フ場合ハ上級協定ノ意ノアル所ヲ下級司令部ニテ了解セシメ置ク事緊要ナリ

(イ)本作戰ハ艦隊司令部PTニ在リSN作戰ニ從事中ノ第十八戰隊ヲ急遽RRニ回航セシメラレ艦隊協定覺書ニ基キRRニ於テ陸海軍協定ヲナセル所陸軍ハ最初協定覺書ノ解釈ヲ廣義ニナレ各種ノ要求ヲナレタルニ際シ艦隊司令部ノ眞意ヲ照會スルヲ要シ延引セリ

(ロ)電報ヲ以テスル照會ハ此ノ種機微ナル事項ニハ其ノ意ヲ盡サス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

二、艦隊軍司令部間協定ヲ遠隔ナル地ニ於テ行フ場合ハ参謀ヲ特派スルヲ要ス

(イ)、陸軍輸送船被害對策ニ関シ軍司令部艦隊間PTニ於テ協議シ軍司令部ハRRニ進出第十八戦隊ト引續キ協議セシメラレタルニ軍司令部ノ要求ガPTニ於ケルトRRニ於ケルト相違シ混雑セリ

(ロ)之ガ爲七月二十六日ノ第二次輸送ヲ二十七日ニ延期セルモ遂ニ艦隊ヨリハ指令セラレス當部隊ニテ決行スルノ已ムナキニ至リタルト共ニ廣德丸ノ使用ニ関シ艦隊司令部ノ意ニ反ス(事後了解ス)ルガ如キ不都合ヲ生起セリ

(ハ)、此ノ場合艦隊参謀一名軍司令部ト共ニRRニ出張スルヲ得バ實施中ノ作戦進捗上好都合ナレレモノト認ム

第三輸送船ノ配備

一、略ボ均等速力ノモノヲ揃ヘルト共ニ敵機及敵潜活動圏内ニ作戰スル今回ノ如キ場合ハ少クモ十四節以上ノモノタルヲ要ス

(イ)リ號研究作戰ニ於テハ左ノ如ク著シク不揃ナリ

海軍　金龍丸（十五節）　廣德丸（十三節）
　　笹崎丸（十五節）

陸軍　綾戸山丸（十七節）　良洋丸（十七節）

(ロ)第一次輸送時ノ如ク敵高々度爆撃機ノ連續来襲ニ際シ防御示砲火不達ニシテ回避ニ依リテノミ被害ヲ逸カレムトスルモ十四節以下ニテハ船ノ利キ悪ク成功ヲ期シ難シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

二、小型優速船（海上トラクター等）ノ利用ハ緊要ナリ
RRヨリ遂次RAF方面ニ小型優速船ヲ以テ補給
輸送ヲ継続スルハ被害防止上有利ナリト認ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第四 驅潜隊ノ能力

十四節探信航行可能ナラバ利用價値極メテ大ナリ

(一) 現狀ニ於テハ十二節ヲ限度トスルモ對潜對空顧慮上船團ノ十二節航行ハ極メテ不利ナリ

(二) 第一次輸送ニ於テ第十八戰隊航過ノ直後ニ於テ潜伏中ノ敵潜ヲ第二十八號驅潜艇ハ充分探信捕捉之ヲ撃沈セリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第五陸軍輸送船

協同作戰ニ參加スル陸軍輸送船ニハ萬難ヲ排シ海軍將校ノ監督官ヲ配員スルコト緊要ナリ

(イ) 事前綿密詳細ニ協定セシニ拘ラズ綾戸山丸被害ノ狀況ハ全々通報セス

(ロ) 荷役ノ狀況ハ一切通報セス良洋丸ハ荷役ヲ打切リ出港セルヲ以テ殘量等ヲ承知スルハ爾後ノ作戰ニ至急ノ聞聯アルヲ以テ特ニ近接再三照會セルモ應答セズ

(ハ) 事前打合會等ニモ定時ニ參集セズ又航海能力等ノ緊要事項ヲ照會スルモ回答セズ其ノ他協同上遺憾ノ点多シ特ニ陸軍ハ揚陸セバ幹

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

部ハ總テ退船スルヲ以テ連絡ハ杜絶スルニ至リ
事後ノ護衛ニ支障アリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

戦訓

第一「リ」號研究作戰ニ關シ

作戰ニ研究ナル字句ノ使用ハ勿論主觀的ニ研究ナル気持ヲ有スル作戰ハ避クルヲ要ス

作戰ノ方針ニ多少ノ優劣アルモ大局的ニ作戰ヲ決定シ事前ノ研究ヲ綿密ニシ充分ナル計画ヲ建テ斷乎之ヲ遂行スルヲ有利トス

今回ノ作戰實施ノ経過ニ鑑ミルニ

一、實施部隊ハ研究作戰ノ気持ナク其ノ覺悟ト實施ハ實戰作戰ト何等異ル所ナシ

二、研究作戰ト雖モ作戰實施上實施サルヘキ本作戰ヲ考慮セサルヘカラス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

即チ研究作戰ト本作戰ト分離實施スルヲ得ス

三、部隊ニ事後ノ作戰ニ對スル補給ノ必要アルヲ以テ研究作戰ト雖モ簡單ナルモノニ非ス

四、研究的ニ開始セラレレ爲計画準備ニ尤ノ点ニ關シ遺憾ノ点アリタリ

(イ) 制空ニ對スル計画並ニ準備 (海軍側)

(ロ) 護衛艦ノ兵力(特ニ對空防御力) (海軍側)

(ハ) 陸上、海上ニ對スル補給(糧秣兵器)ノ研究計画並ニ準備 (陸軍側)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第二 敵航空基地附近作戰部隊ノ兵裝ニ関シ

一、軽巡及駆逐艦等軽快ナル艦艇ニシテ而モ主砲ガ対空射撃可能ナル新型ヲ配スル要アリ

(イ)第一次輸送時高々度水平爆撃ヲ爲セル敵ハ我ガ防空兵裝ノ貧弱ナルヲ觀破シ第二次ニ於テハ低空ヨリ爆撃シ且ツ執拗ニ大型爆撃機スラ銃撃ヲナシ又急降下爆撃機ヲ集中セリ

(ロ)敵ハ物質上優レル場合ノミ強硬トナリ且此ノ場合徹底的ニ全幅活躍スル傾向大ナルヲ以テ我ニ十二糎以上ノ防禦砲火アラバ此種敵ノ活動ヲ封スル事ヲ得ヘシ

(ハ)七月三十一日廣德丸ニ對シ行ヒタル敵大型機ノ行動ハ全ク我ガ対空兵裝ヲ無視セル執拗ナル

モノナリレモ龍田、夕月ノ兵装ニテハ如何トモナス能ハス

二、敵水上艦艇トノ交戦ヲ豫期セス敵機トノ交戦ハミヲ豫期スル場合ハ対空用弾薬ヲ多ク搭載シ得ル如ク規定セラルルヲ可トス

夕月ハ對空弾薬ヲ殆ト全部消耗セリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第三 輸送船ニ關シ

一、對空兵装ヲ強化スルヲ要ス
陸軍輸送船ハ高角砲六門十三粍機銃四基程度ヲ有スルモ海軍輸送船ハ無装備ナルモノアリ、十三粍ニ基ヲ有スルモノハ有力ナルモノナリ、

二、高速船ナルヲ要ス之カ為特設巡洋艦トナセル優秀船ヲ輸送船ニ改装スルモ已ムヲ得サルヘシ
爆撃回避上少クモ十四節程度ノ速力ヲ出シ得ル事肝要ナリ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(ロ)對空對潜ヲ主トスル作戰ノ現狀ニ於テハ特設巡洋艦ハ其ノ本來ノ任務ヲ遂行スル機会少ク單ニ輸送任務ニ從事セシメラレアル實情ナリ(一例金龍丸輸送任務ノミナラハ特設巡洋艦トナシタル爲尤ノ通着シタ其ノ能力ヲ低下シアリ

(ハ)兵裝ニ伴フ乘員多ク船艙使用不能ナルコト

(ニ)「ハッチ」ヲ閉鎖シアル爲積荷減少スルコト

(ホ)寧ロ作戰ノ實情ニ鑑ミ此ノ種優秀船ハ輸送船トシテ全幅活用スルヲ有利ト認ム

三、各船固有ノ「ウインチメンヨ」乘船セシムルヲ要ス

夜間急速荷役上緊要ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第四、迅速荷役ニ関シ

敵機ノ活潑ナル地点ヲ攻略我カ基地ヲ急設
轉進セムカ爲ニハ迅速荷役ハ作戰ノ枢軸
トナルヲ以テ根本的ニ各部ニ亙リ再検討ヲ要ス

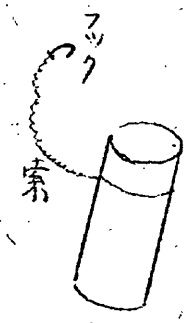
一、輸送船ニ對スル検討
各「ハッチ」各「デリック」ヲ全幅活躍セシムル如ク艤
装ヲ改メ之カ作業員ヲ常備シ訓練スルヲ要ス
大發ヲ迅水スルニ二時間ヲ要スルモノアリ

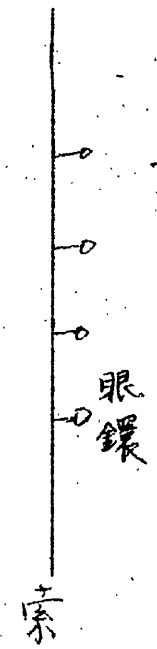
二、輸送物件ニ関スル検討
(イ)此ノ種作戰ニ緊要ナル物件ヲ研究一定シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

緩急順序ヲ附シ内地ニ於ケル積込時緊要ナル物件ヨリ揚荷シ得ル如クス

(ロ)「ガソリン」「ドラム」缶ハ輸送船ヨリ沒水シ事後拾集シ得ル如ク左ノ如キ規格ヲ定ム



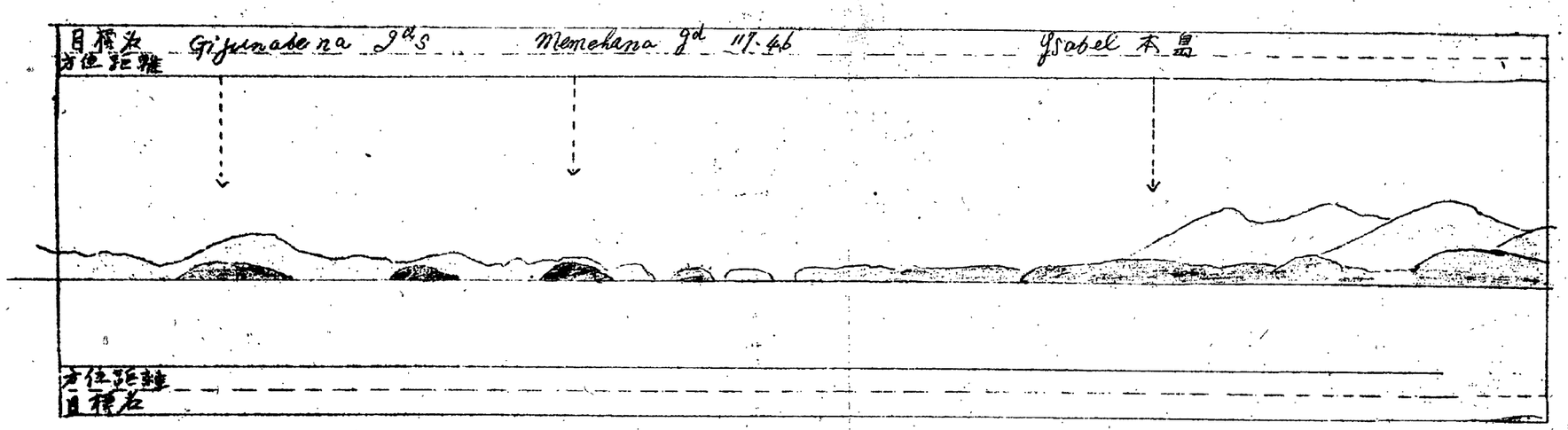


アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

0270

別紙第二号
対景図

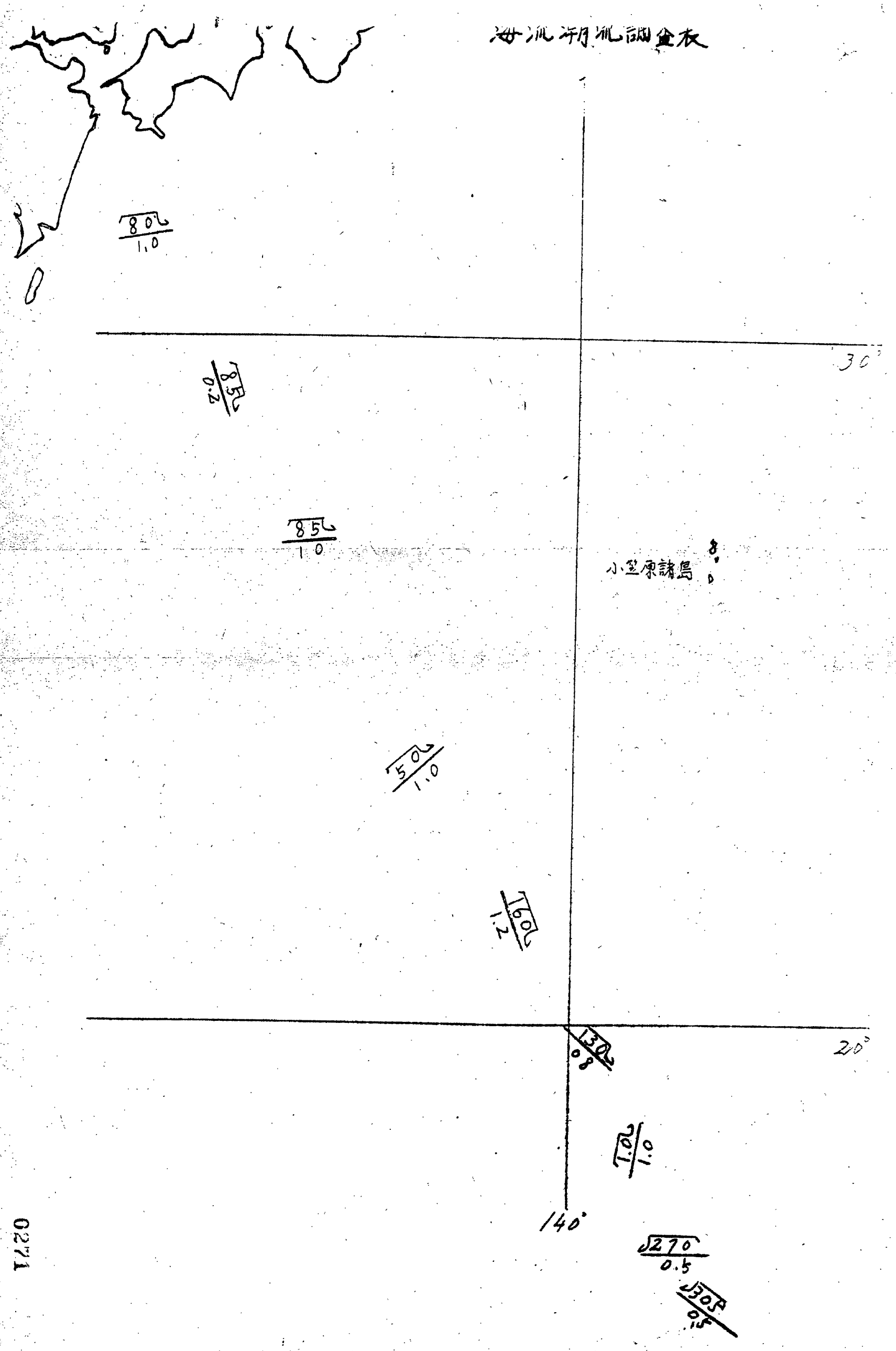
標題 Rekata Bay 入口



作製者	航海長 佐々木大尉	艦船名	軍艦天龍	作製時	17～7～7.	天候	b.0	海図番号	No.2109.

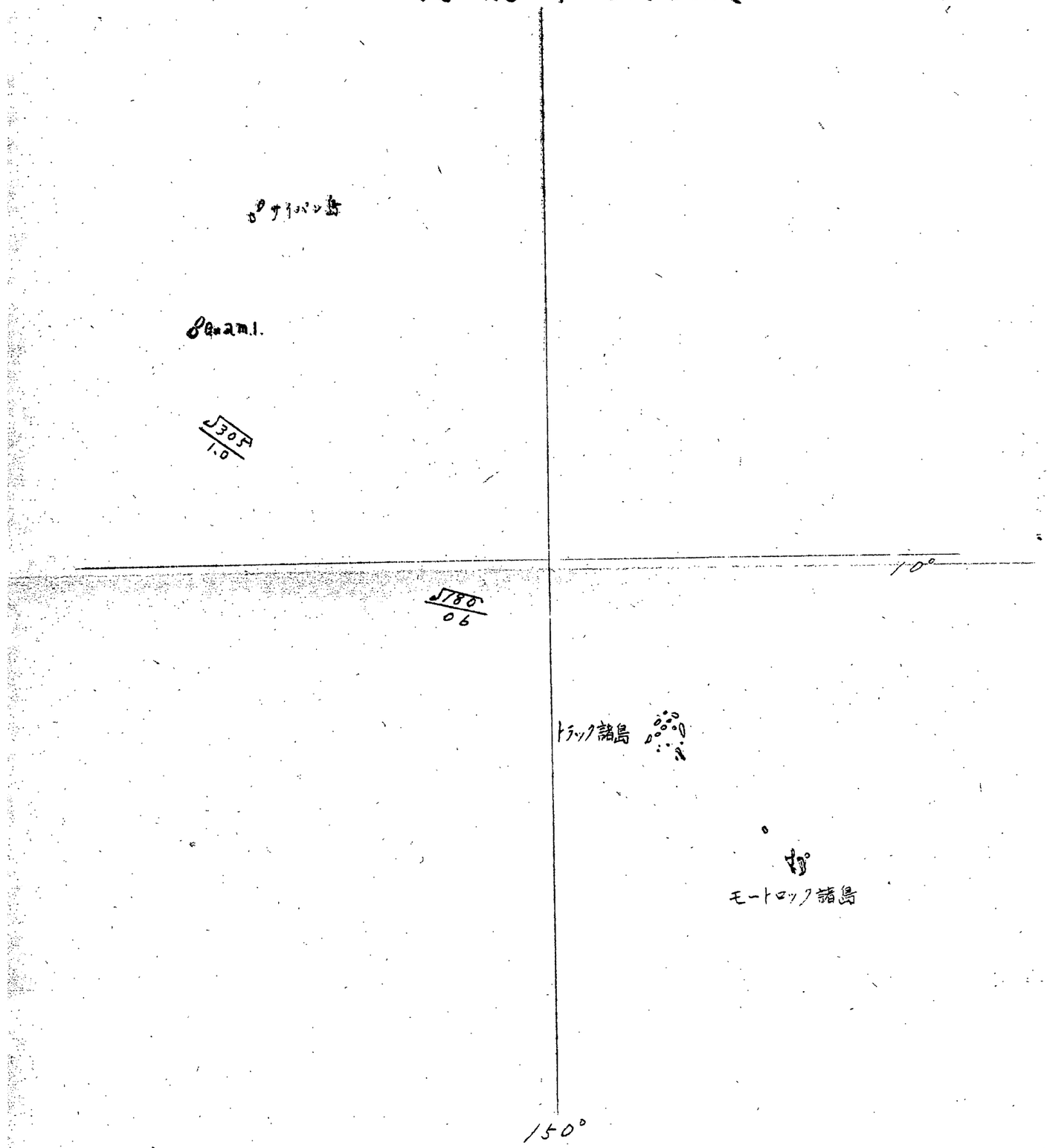
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

海流浮游流調査表



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

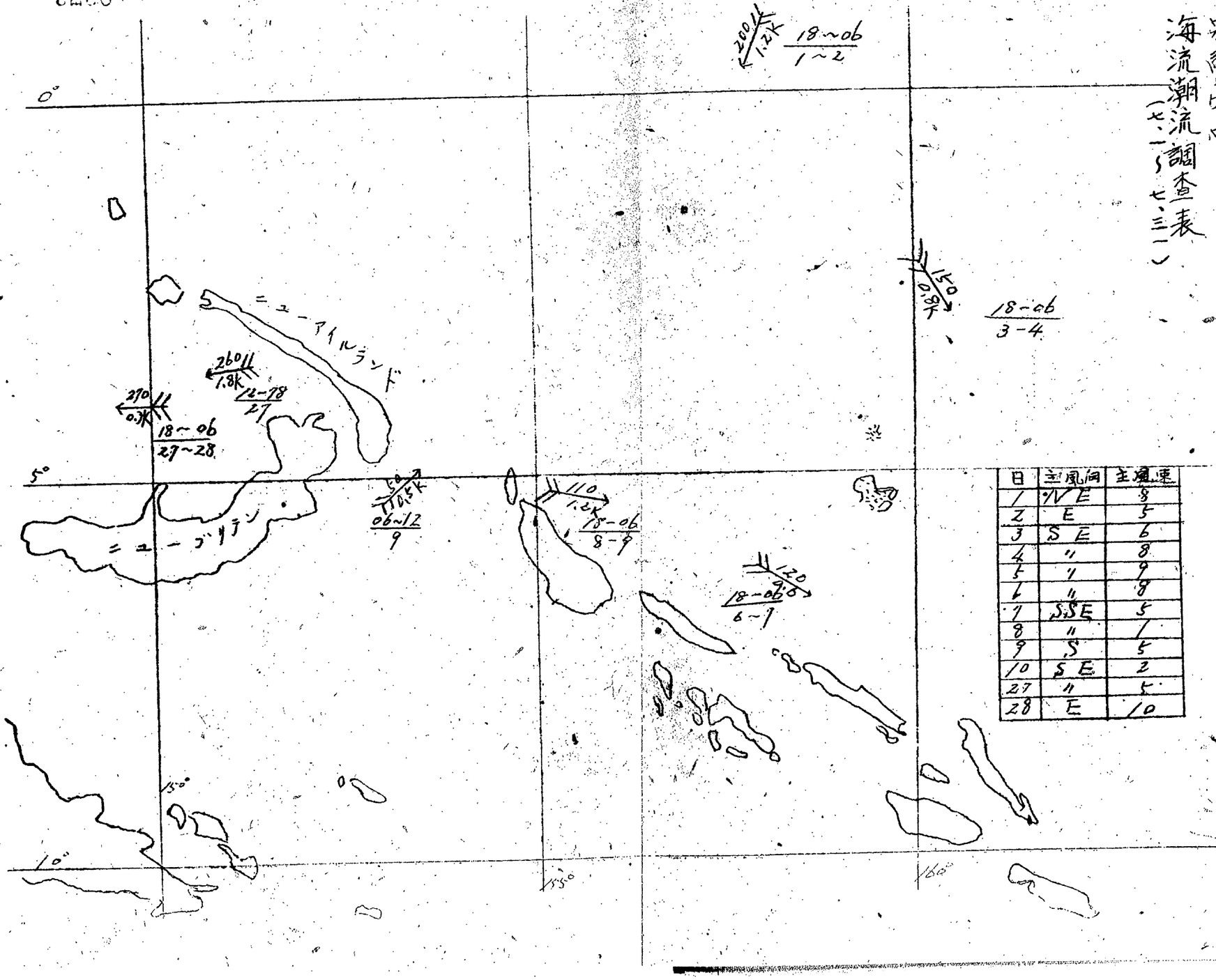
海流 潮流調査表



0272

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

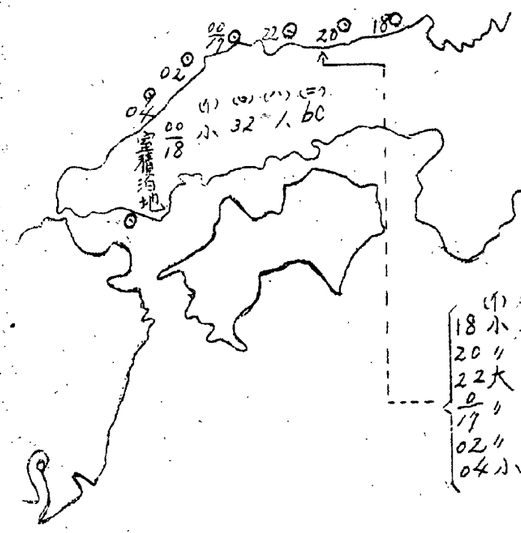
別紙第四
海流潮流調査表
（七、一～七、三一）



日	主風向	主風速
1	NE	8
2	E	5
3	SE	6
4	〃	8
5	〃	9
6	〃	8
7	SSE	5
8	〃	1
9	S	5
10	SE	2
27	〃	5
28	E	10

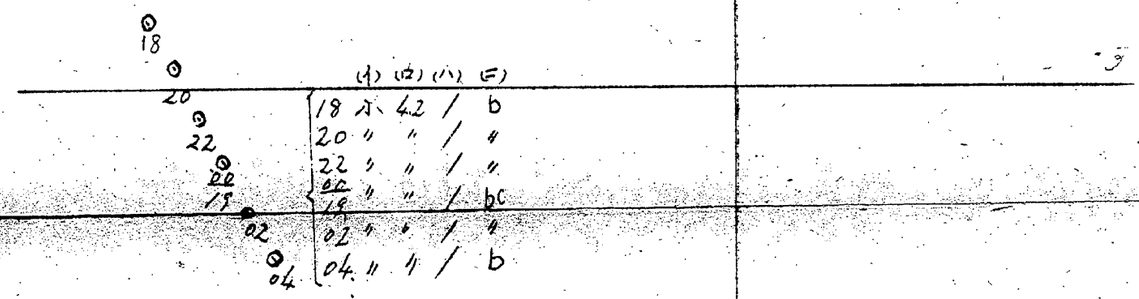
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

夜光度調査表



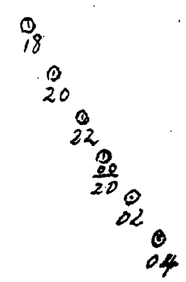
	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
18	小	2.2	/	bc
20	〃	〃	/	〃
22	大	〃	/	〃
00	〃	〃	/	〃
17				
02	〃	〃	/	〃
04	小	〃	/	〃

(イ) 磐光度
(ロ) 月
(ハ) 月高
(ニ) 天候



	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
18	小	4.2	/	b
20	〃	〃	/	〃
22	〃	〃	/	〃
00	〃	〃	/	bc
17				
02	〃	〃	/	〃
04	〃	〃	/	b

小笠原諸島

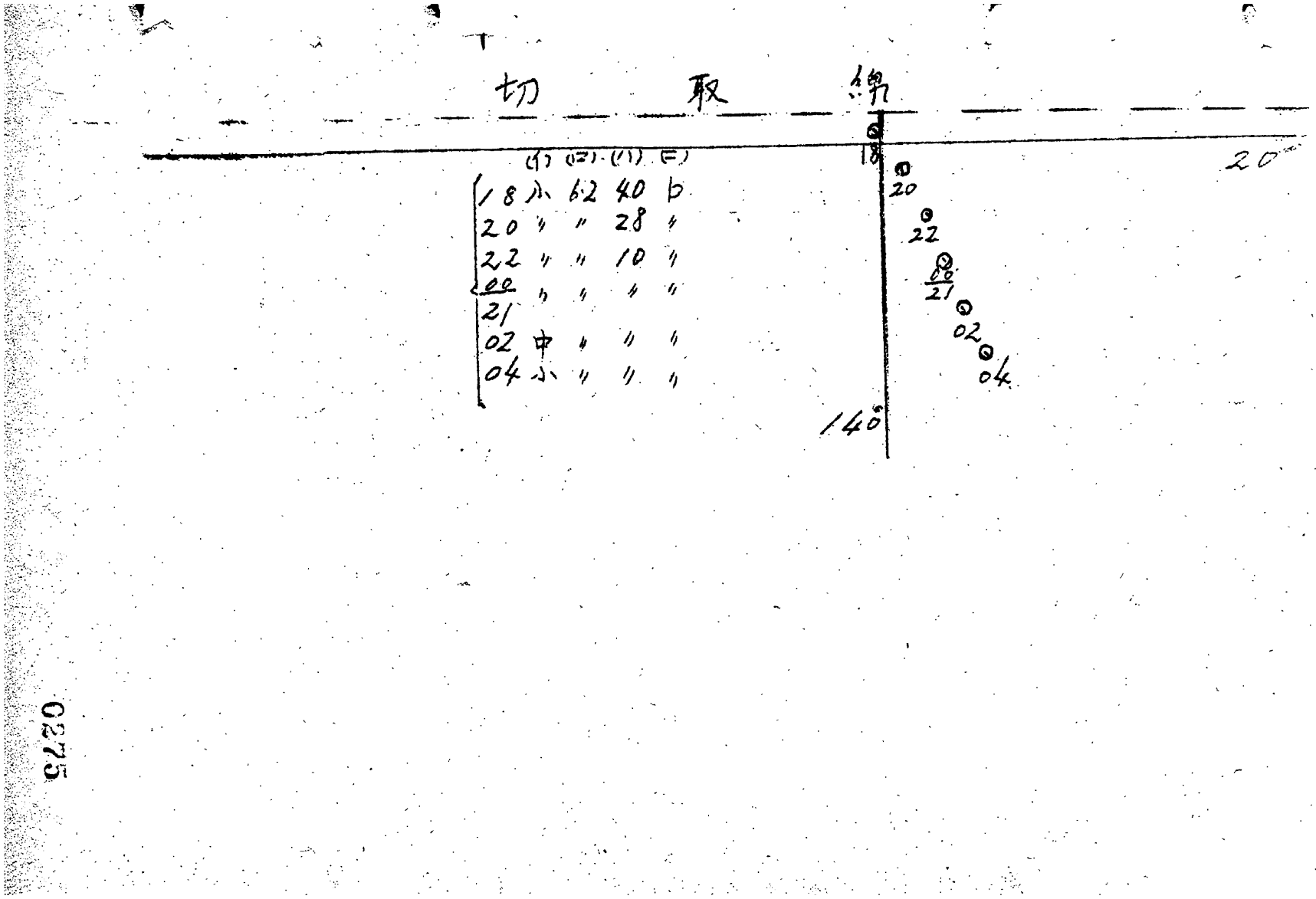


	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
18	⊙	5.2	20	b
20	⊙	〃	10	〃
22	大	〃	7	〃
00	小	〃	/	〃
20				
02	〃	〃	/	〃
04	〃	〃	/	bc

0274

添貼線

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

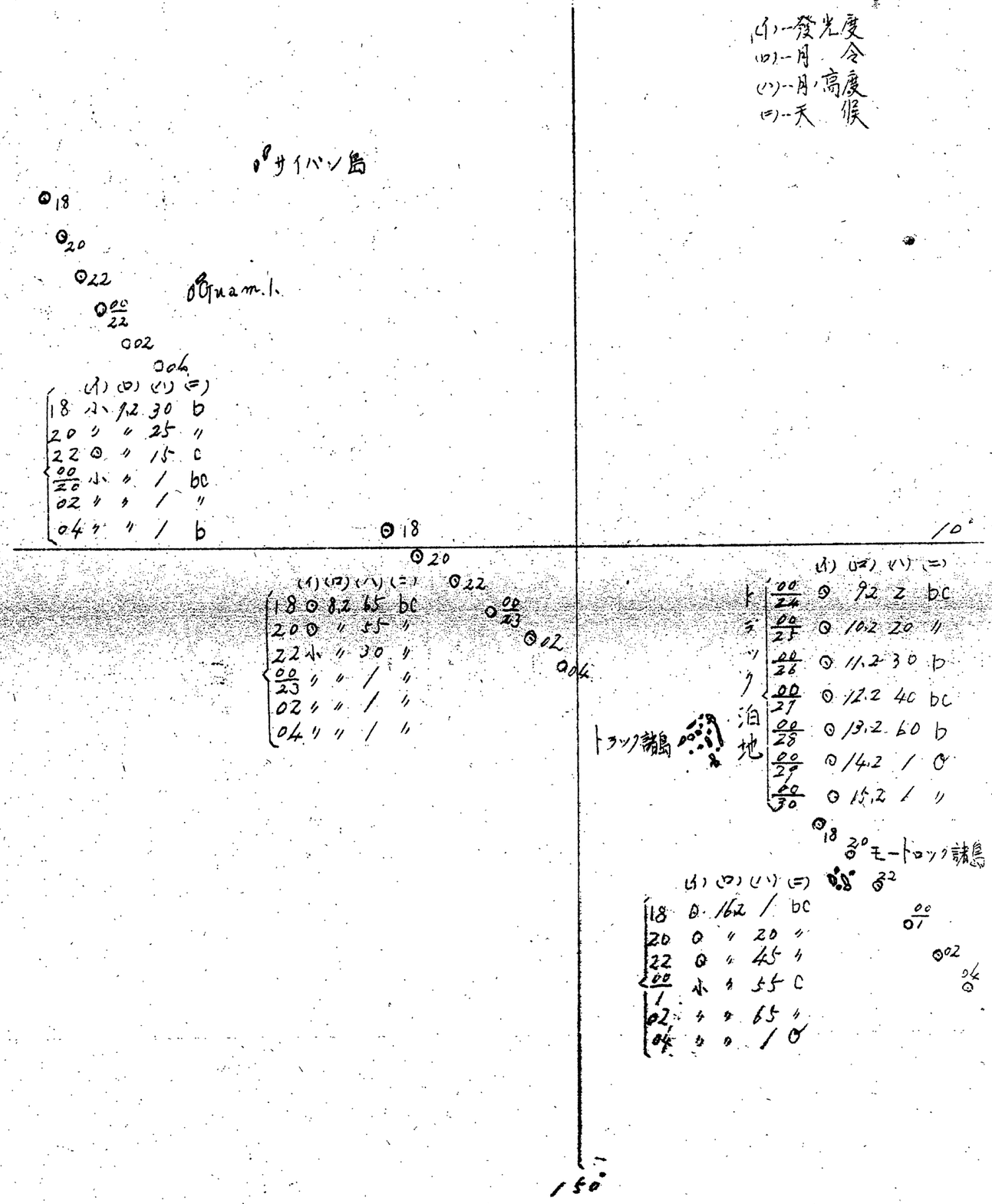


0375

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

夜光度調査表

(イ)--發光度
(ロ)--月　令
(ハ)--月ノ高度
(ニ)--天　候



	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
18	小	9.2	30	b
20	〃	〃	25	〃
22	⊙	〃	15	c
00/22	小	〃	/	bc
02	〃	〃	/	〃
04	〃	〃	/	b

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
18	⊙	8.2	65	bc
20	⊙	〃	55	〃
22	小	〃	30	〃
00/23	〃	〃	/	〃
02	〃	〃	/	〃
04	〃	〃	/	〃

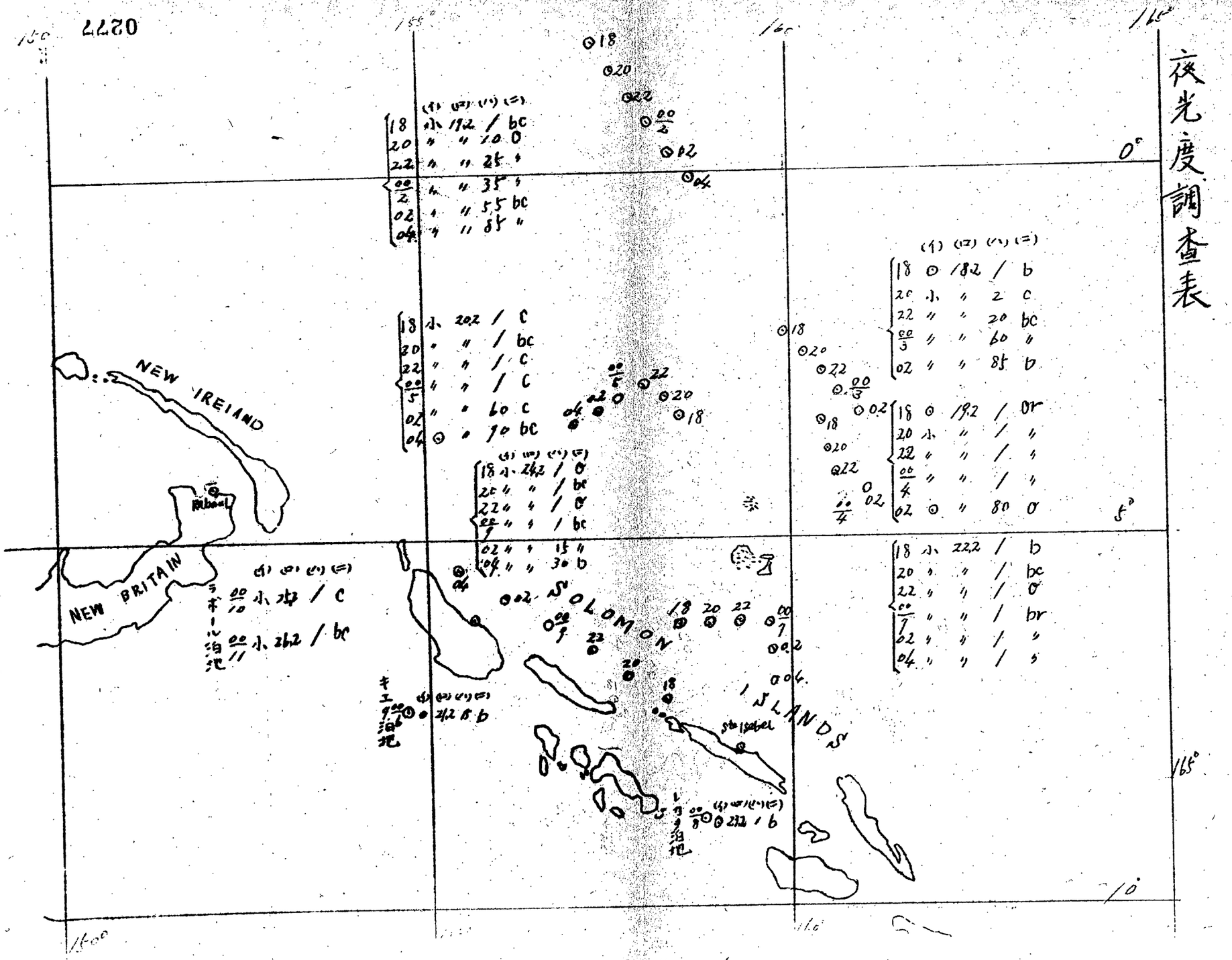
	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
00/24	⊙	9.2	2	bc
00/25	⊙	10.2	20	〃
00/26	⊙	11.2	30	b
00/27	⊙	12.2	40	bc
00/28	⊙	13.2	60	b
00/29	⊙	14.2	/	⊙
00/30	⊙	15.2	/	〃

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
18	⊙	16.2	/	bc
20	⊙	〃	20	〃
22	⊙	〃	45	〃
00/1	小	〃	55	c
02	〃	〃	65	〃
04	〃	〃	/	⊙

C276

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

夜光度調査表

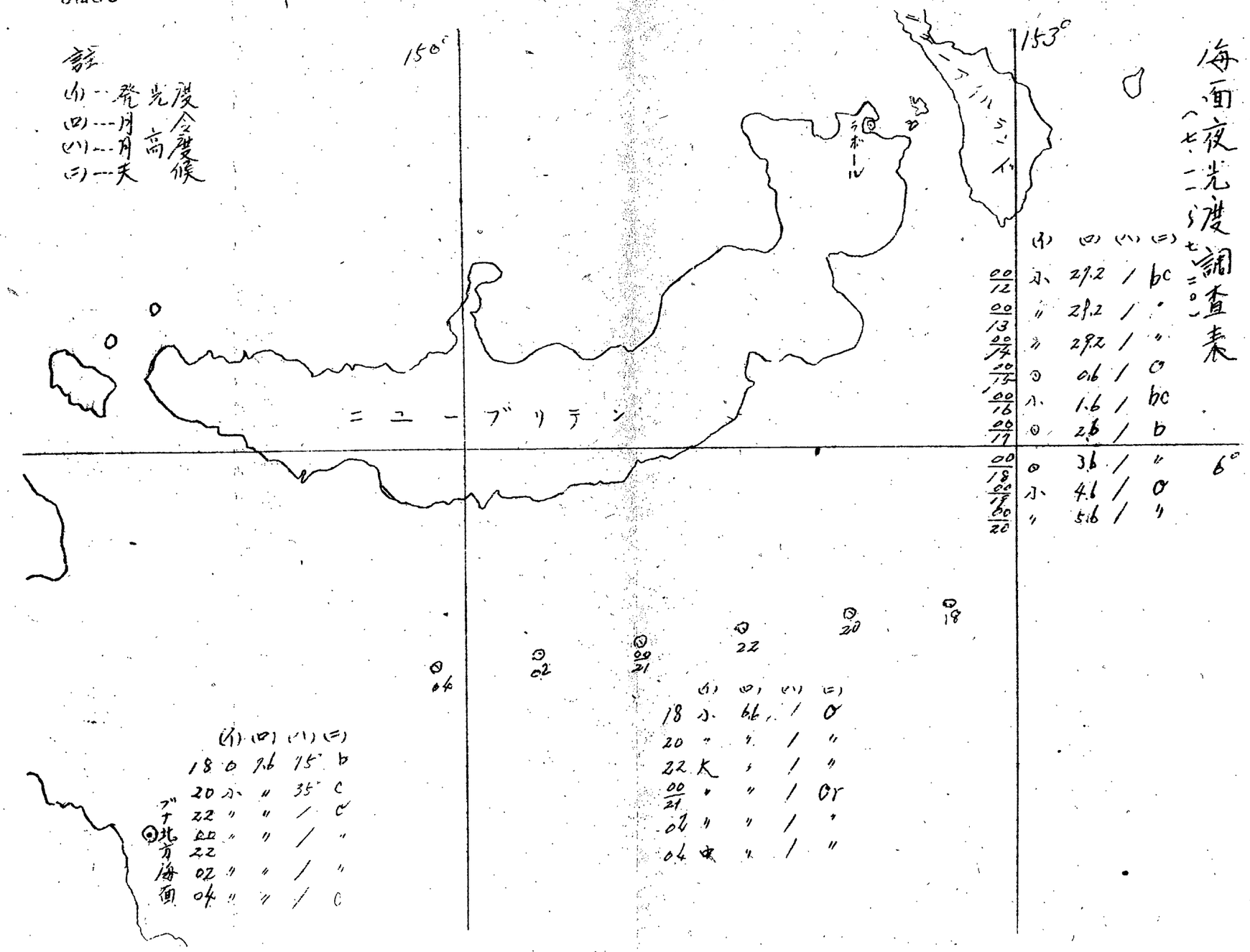


アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

海面夜光度調査表

（七、二、〇）

註
(イ)…発光度
(ロ)…月令
(ハ)…月高
(ニ)…天候



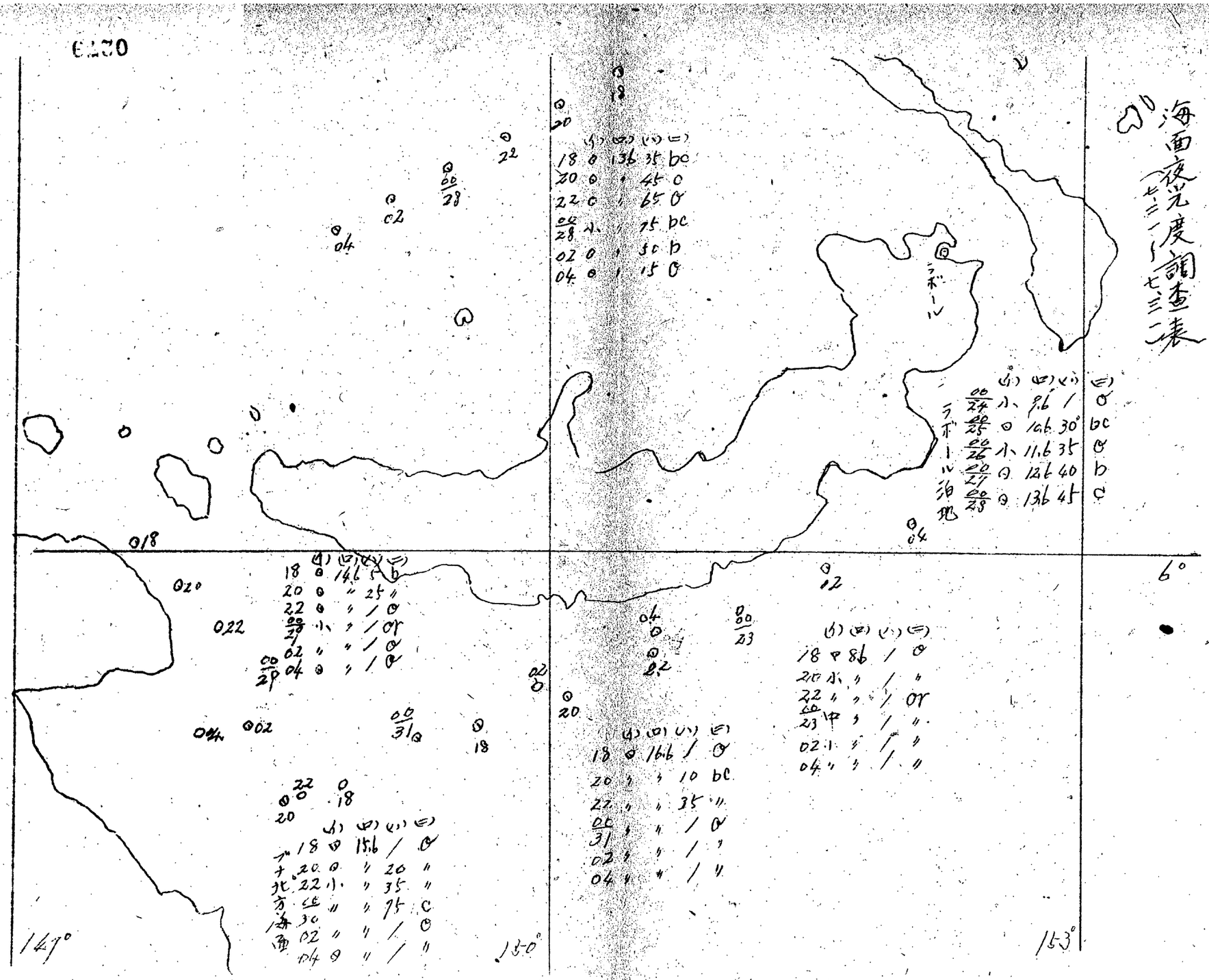
	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
00/12	小	27.2	/	bc
00/13	〃	27.2	/	〃
00/14	〃	27.2	/	〃
00/15	⊙	0.6	/	c
00/16	小	1.6	/	bc
00/17	⊙	2.6	/	b
00/18	⊙	3.6	/	〃
00/19	小	4.6	/	c
00/20	〃	5.6	/	〃

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
18	小	6.6	/	c
20	〃	〃	/	〃
22	K	〃	/	〃
00/21	〃	〃	/	cr
02	〃	〃	/	〃
04	〃	〃	/	〃

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
18	⊙	9.6	15°	b
20	小	〃	35°	c
22	〃	〃	/	c
00	〃	〃	/	〃
22				
02	〃	〃	/	〃
04	〃	〃	/	c

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

海面夜光度調査表



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

五、作戰經過概要

日	一六・三〇	一七・一
所在	151－47.0 E 20－0	3－07.0 N 154－38.0 E
天候	曇	曇
風向	SE－五・〇	NE－六・五
風速	二八・五	三〇・〇
視界	三五	四〇
一〇〇〇日没時	霧	薄曇
	NE－九・〇	NE－四・〇
	二七・五	二九・〇
	二〇	一五
一般任務	聯合艦隊第四艦隊、第八戰隊南洋部隊支援部隊	
特別任務	作戰間接援護及敵艦撃滅	
經過概要	一、一〇〇〇第八戰隊ハ順ニ打出東南方道ヲ経テ警戒南下（第三警戒配備） 二、一〇〇〇第四警戒航行序列 三、一七〇〇第一警戒航行序列ニ占位 午後本行動中概ネ変更ナシ 夜間第一警戒航行序列ヲ以テ行動ス	一〇〇七一三海峡ニ入ル五十分東経一五六度八分ニ於テ輸送船団（附護衛）ニ会合 二、〇八三〇頃輸送船団東方ニ出デ不幾支援部隊ハ該船団ノ東方五〇浬附近ヲ並航南下ス
記事	一、エンタープライズ搭載機ランキ方位ヨリ一二五度 二、五五〇〇偵察ニ依レバ「ユス」ガ「リンガエン」島「アラミ」島間ヲ道ニ敵航空母艦六隻ノ敵艦ランキ六〇〇〇頃級一隻在泊	一〇一〇〇頃五〇M西方ニ敵艦約一〇〇米表ヲ認メ二三五〇ヲ以テ退ス 一〇三〇頃駆逐艦秋風、AK13ヲ湾口ニテ敵潜ヲ認メ撃沈 二〇二〇〇第八戰隊ハ幾内九（附護衛）RZM看破解編 四南洋部隊電令作第二三号発令（〇九二〇） 五、月日二三三〇（〇九二〇） 六月四日未明敵機動ニ対シ厳戒スベキ旨発令サル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

四	三	二
4-30.0S	3-30.0S	1-00.0S
159-15.0E	161-30.0E	159-20.0E
曇 SE-七.0 三〇.五 三五	快晴 E-七.0 三〇.0 三五	快晴 E-二.0 二九.五 四〇
〃 SE-六.0 二七.四 一〇	曇 SE-六.0 二九.0 一五	〃 E-五.0 二九.0 一五
	〃 〃 〃	

一、〇四四五M実附近(南緯〇度三五分東経一五九度〇分)ニテ空輝丸(第三号輸送船)ト会合

二、自〇六〇〇至〇八〇〇 空輝丸ヨリ燃料補給、補給針路一三〇度速力八節 補給量 天竜二〇瓩、重田二五瓩

一、自〇三三〇至〇五三〇 三号西節即時待機第二警戒配備ヲ以テ黎明対敵警戒ヲ厳ニス

二、〇五〇〇M実(南緯〇度一五分東経一五一度三〇分)着 自一二〇至一五五 夜間二〇〇理京敵機(青葉一号機)発進 一〇三〇敵看敵ヲ見ズ

三、〇九五六味方(式陸攻)機(〇二六京敵機)ガ隊上空旋回五五ニ爆投ス

四、M実附近機宜行動中一二三五GCT機ガ味オ九二号電ニ依リ敵空母(エンタープライズノ算アリ)ヲ含ム部隊南下西進シツツアリタイ空機アルヲ知ル(司令)情報)及ビ翌日六日首脳ガ南六日七日特ニ厳戒要アリト明新ス

一、〇五〇〇M実着 雨ガ降ラズ 敵ノ手足ナラシ 悪天候不良ノ為予定ヲ変更シ〇三〇〇反転「スマカナヌ」島ニ向フ

二、自〇四〇〇至〇五五〇十八節 即時三号西節三号分隊待機 第二警戒配備ニテ黎明対敵警戒ヲ厳ニス

一、南洋部隊電令作第三六号 発令(〇八三〇)

二、〇〇〇〇支援部隊補給終了 空輝丸及AE同航

三、〇〇〇〇天候不良 ガ機 ガ機 ガ機

六	五	
5—30.0S	5—15.0S	
157—05.0E	156—08.0E	
晴 SE—五五 二八、0	薄曇 SE—10、0 二九、0 三五	
曇 SE—六、0 二八、一	〃 SE—六、0 二九、0 一、0	
	〃 〃 〃	

三、〇〇〇ヒ班ヨリ敵発見。九三五次デ〇三六、敵地点PY二〇〇度三五浬ニ発電ヲ受ケ夜間準備ヲ法テ四節即時三八節ニテ分間待機ヲ下令ス

四、敵針路度速カレ式即〇三五触接ヲ火ン タリト。電ニ此モ敵捜索代機ニ再度補捉ヲ算ヲ且HAB、重ヲ可能ト認メタルヲ以テ夜戦転入可能ナランベシ支援部隊東方進出ヲ意見具申ス

五、支援部隊ハ青葉機ヲ発進「ヲ」島泊地偵察ヲ実施セ上五日早朝ヲウロレ島ノ北方六〇浬ニ達シ機ヲ以テ東方面ヲ捜索ニ備ヲル如ク行動ス

三、〇〇〇ヒ班ヨリ敵発見。九三五次デ〇三六、敵地点PY二〇〇度三五浬ニ発電ヲ受ケ夜間準備ヲ法テ四節即時三八節ニテ分間待機ヲ下令ス

四、敵針路度速カレ式即〇三五触接ヲ火ン タリト。電ニ此モ敵捜索代機ニ再度補捉ヲ算ヲ且HAB、重ヲ可能ト認メタルヲ以テ夜戦転入可能ナランベシ支援部隊東方進出ヲ意見具申ス

五、支援部隊ハ青葉機ヲ発進「ヲ」島泊地偵察ヲ実施セ上五日早朝ヲウロレ島ノ北方六〇浬ニ達シ機ヲ以テ東方面ヲ捜索ニ備ヲル如ク行動ス

三、〇〇〇ヒ機発信六六四号電（四日一六四〇）ニ依リPY南方ニ敵八宗敵機ノ誤認ト判明ス

六、支援部隊ハ三十度ヲ変更シBXAニ向フ

三、二四五味方大艇（C区宗敵機）ノ機視界内ニ入リ支援部隊ヲ敵巡洋艦ト誤認電報ノ後BXAニ攻撃ス

四、一六三〇BXA（港室洋丸ニ横付補給、天竜）

三九五発、竜田二九〇発

五、BXA巡洋戦艦（第四艦隊）

一、自〇四二五至〇五〇〇（第二巡洋戦隊）

二、〇四三〇BXA出撃（BXB出撃）順「イ」ベル島北西部コカタ泊地ニ向フ

三、BXB機発信多電（二〇〇〇敵潜水艦方位BXBヨリ二四度）ニ依リ対潜警戒ヲ特ニ

三、PF電令作第一七七（一〇五〇）

発令（一二四五）

「PF」印南洋部隊ハPY南方ニ出撃ノ敵ヲ警戒攻撃スベシ

四、〇〇〇HAB第二部隊撤収

隊全力即時待機（第一、第二巡洋隊）

第一部隊AA後進隊（HAB）

移動準備方下令

三、南洋部隊電令作第一四二号（一〇五〇発令）ニ依リTF即ハ再ビ反転シ六日午後BXI入泊予定、荷役ニ従フベルタトナル

一、BXB（朝風）BXA入港

二、〇二〇〇HAB補給開始

三、HAB引続キBXB補給

四、二〇〇〇TF即BXI着、荷役開始

五、一四四五「ルンガ」ロード泊地

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

九	八	七	
明西四五入港	一六〇米 S 5/5 ～ 5/5 E	一三〇入港 レカタ湾内 カレタ泊地	
快晴 SE－五、〇 二九、〇 四、〇	晴 E－四、〇 二九、二 三五	曇 W－四五 二六、五 三五	三五
曇 SW－四、〇 二九、〇 一五	曇 SE－三、〇 二八、八 一〇	快晴 E－二、〇 二七、〇 一五	一〇

〃
〃
〃

南洋部隊電令作第二四七号ニ基ク特令任務
（第一準戦作戦研究）

一、〇四〇〇以後之ヲ逐次動員カヲ南部ニ「セントジョージ」呼（BN）ノ東方六〇浬附近ニ偏積ノ敵艦（第一）撃破 二、一五〇〇頃第四警戒配備到達 三、第一時間待機（敵潜水艦ヲ撃沈） 十二時第一時間待機（敵潜水艦ヲ撃沈） 三、砲撃到達 四、〇〇〇〇基地ヲ敵機（機種不明）ニ襲フト 情報ニ依リ二〇五三ノ第一配備第十六第四時待機ヲ以テ敵ヲ撃沈ス	一、〇二一〇大同丸（四砲戦）ヲ、一四九度七〇浬ニ敵発射ヲ発見 二、自〇九〇〇至一五〇〇迄地掃海及調査 三、南洋部隊電令作第二四七号ニ依リ一六〇〇ロタヒ迄地点ニ到着ス（明時第二配備）	一、掃海及掃蕩スルモ水域機雷障碍物ノ設置陸上住民ヲ敵性施設ヲ認ズ	厳ニス
	南洋部隊電令作第二四六号（〇五〇〇）発令 敵（常警戒）主隊ニ復	一、〇八〇〇以降ロタ出撃 二、一六四四 SW 四 BDM 東方五浬ニ敵潜水艦ヲ発見攻撃	以ニ於テ多張敵大型機爆撃ノ変ヲ 六〇九五ニ多張「ザボ」島附近ニ敵潜水艦発見攻撃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一四	一三	一二	一一	一〇
〃	〃	〃	〃	〃
晴 SE一九、〇 三〇、五 三五	曇 SW一七、〇 二八、五 三〇	晴 E一七、〇 二八 三五	快晴 SE一五、〇 三〇、〇 三五	曇 SE一五、〇 二八、〇 三〇
曇 S一七、〇 二七、五 一〇	〃 SE一五、〇 二八 一〇	曇 E二、〇 二八 一〇	晴 E一二、〇 二八、〇 一三	〃 SE一三、〇 二七、〇 一〇

→ 隊部略攻J之R隊部洋南
→ 衛護接直進転面方ナカリ(陸軍)戦作研究「号」

警戒破綻	「ロ」号研究作戦護衛陸軍間協定成立		「洋南部隊電令作第三五三号参令 支援部隊ヨリ除カレ攻略部隊ヨリ除カレ攻略部隊ヨリ除カレ攻略

一五	一六	一七	一八	一九
晴 SE一五〇 二九、五 三五	曇 E一三〇 三〇、五 三五	晴 SE一八〇 三〇、五 四〇	曇 SE一五〇 三〇、五 三五	〃 SE一六〇 二九、五 三五
曇 SE一二〇 一二八、〇 〇	晴 E一四〇 一三一、〇 一五	〃 SE一三、五 一二八、五 一	〃 SE一三〇 一二八、〇 〇	〃 SE一四〇 一二八、〇 〇

及 R

一聯合艦隊第八潜水隊第十八戦隊

一南洋部隊(第四水雷戦隊指揮官)及J攻略部隊

(築港及道路整備調査研究部隊)及J攻略部隊

〇八〇〇卯月出着 一三三〇金竜丸出着 一六一五筑紫丸出着		〇八五四敵機(B一二四)五機出上空 来襲(高度六〇〇〇以上)陣上及機械関係 近投弾竜田砲撃ス我ニ被害ナシ	一三〇〇船長講習 通信打合(於天竜) 一五三〇津軽出着	一〇〇〇朝凪出着
		一、〇八〇〇攻略部隊作戦打合ヲ行フ (於天竜) 二、一三三〇185石廠ヨリ補給(天竜 九〇〇竜田〃)	二、第十五設営隊、他J攻略部 隊ニ集結	一、一二三〇廣德丸出着 二、南洋部隊電令作 第四号発令 廣德丸ヨリ部隊ニ編 入サル
一七〇〇廣德丸ヲJ攻略部隊 輸送隊ニ編入ス				

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

二五	二四	二三	二二	二一	二〇
月月		二〇〇阻入港	7-57.0S 148-16.0E	7-50.0S 148-20.5E	5-44.0S 152-56.0E 〇五〇〇出港
三 二九 SE一九、〇 〇五	二 二八 E一三、〇 一五	曇 三 二七、八 S一四、〇 五	晴 三 二九、一 SE一四、五 〇	曇 三 二七、 SE一六、〇 五	曇 三 二七、五 S一六、〇 〇五
一 二九、 SE一五、〇 〇〇	一 二五 S一四、〇 〇〇	一 二六、 S一三、〇 〇〇	一 二七、 SE一五、〇 〇〇	一 二八、 SE一四、五 〇〇	一 二八、 E一六、〇 〇〇

〃
〃
〃

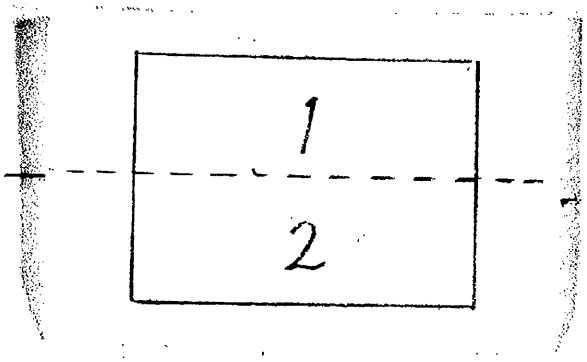
敬言戒強化		一、一二〇〇阻着直ニ石廊ヨリ補給 天候 晴、雲多 風 二、一二四〇敵機一阻偵察（高度六〇〇〇米）	第一次輸送（阻之丁攻略部隊詳細未詳報第一輸送参照）		〇一〇〇 11時 良洋丸 〇五〇〇 MB（阻）24時 金富丸、綾子山丸 阻出重（ロ）護衛研究作戦（第一次輸送）
一二五 夕月阻着	一三二〇 津軽 20時 良洋丸 阻着				

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二一	三〇	二九	二八	二七	二六
R.R					
SE一二、〇 三〇、五 三	晴 三二、五 三	E一四、〇 二八、七 四	E一四、〇 二八、〇 三	快晴 E一五、〇 二七、五 三	曇 E一五、〇 二〇、五 三
曇 二七、五 一	曇 SE一三、〇 二八、五 一	〃 SE一四、〇 二八、五 一	〃 SE一三、〇 二八、五 一	〃 E一三、〇 二八、〇 一	曇 E一三、〇 二九、〇 一
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〇一〇〇敵B-17一機彩雲偵察（高度約一〇〇〇米） 〇一〇〇天竜転舵（沖島ノ三五度三五〇米）	〇一〇〇敵B-17一機彩雲偵察（高度約一〇〇〇米） 〇一五〇〇童田服着 海軍第二次輸送（R.R.T.詳細報告ノ三号参照） 〇二三〇転舵（夜間里童ヲ警戒ス敵機ハ来ラズ）	〇一〇五敵B-17一機彩雲偵察（高度約一〇〇〇米） 第二次輸送（R.R.T.詳細報告ノ三号参照）	〇二二二敵B-17一機彩雲偵察（高度約一〇〇〇米）	〇五〇〇童田出港（第二次輸送護衛隊指揮官）	〇五〇〇童田出港（第二次輸送護衛隊指揮官） 〇八〇〇リ号研究作戦第二次輸送作戦打合
〇一〇〇敵B-17一機彩雲偵察（高度約一〇〇〇米） 〇一五〇〇童田服着 海軍第二次輸送（R.R.T.詳細報告ノ三号参照） 〇二三〇転舵（夜間里童ヲ警戒ス敵機ハ来ラズ）	〇二〇〇天竜転舵（沖島ノ三五度三五〇米）				
〇六〇〇津軽南海丸出港 〇三二〇〇有服着 〇五〇〇里岡服着 〇二二五〇朝風出港打合ノ為	〇四五〇鳥海服着 〇六〇〇R.R.T.長官將旗ヲ陸上ニ移揚 鳥海丸二次被害	〇四四三R.R.T.敵ノ空襲ヲ受ク（鳥海丸被害）	〇五二〇朝風服着 〇二五五南海丸（十五隻）服着	一、R.R.T.長官外南洋部隊指揮継承 二、〇五〇〇第二次輸送船団発（北方航路） 三、金童丸改路部隊ヨリ除ク	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影したことを証明する

59 年 10 月 30 日

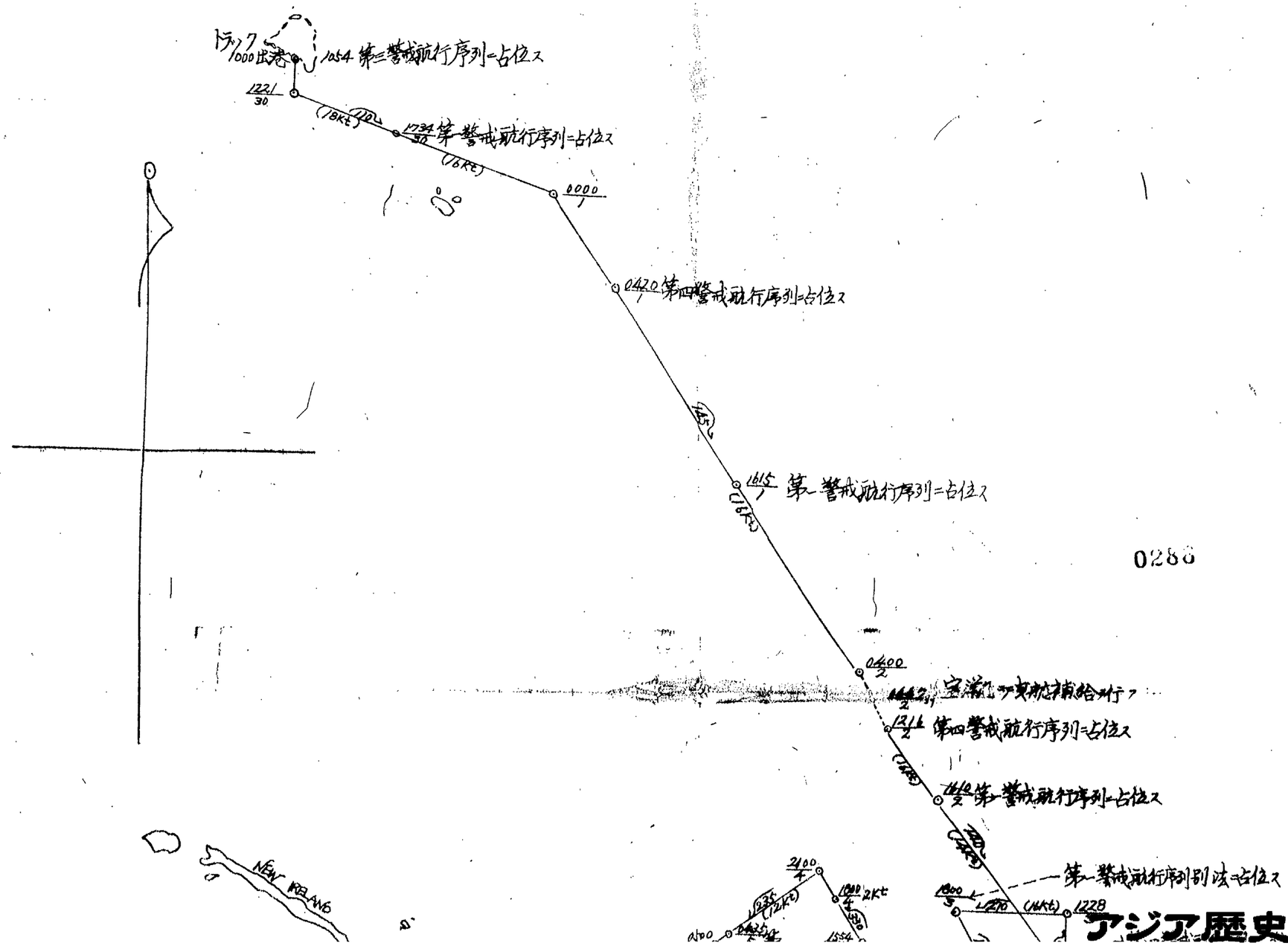
主務者又は

撮影立会者　山岸正雄 印

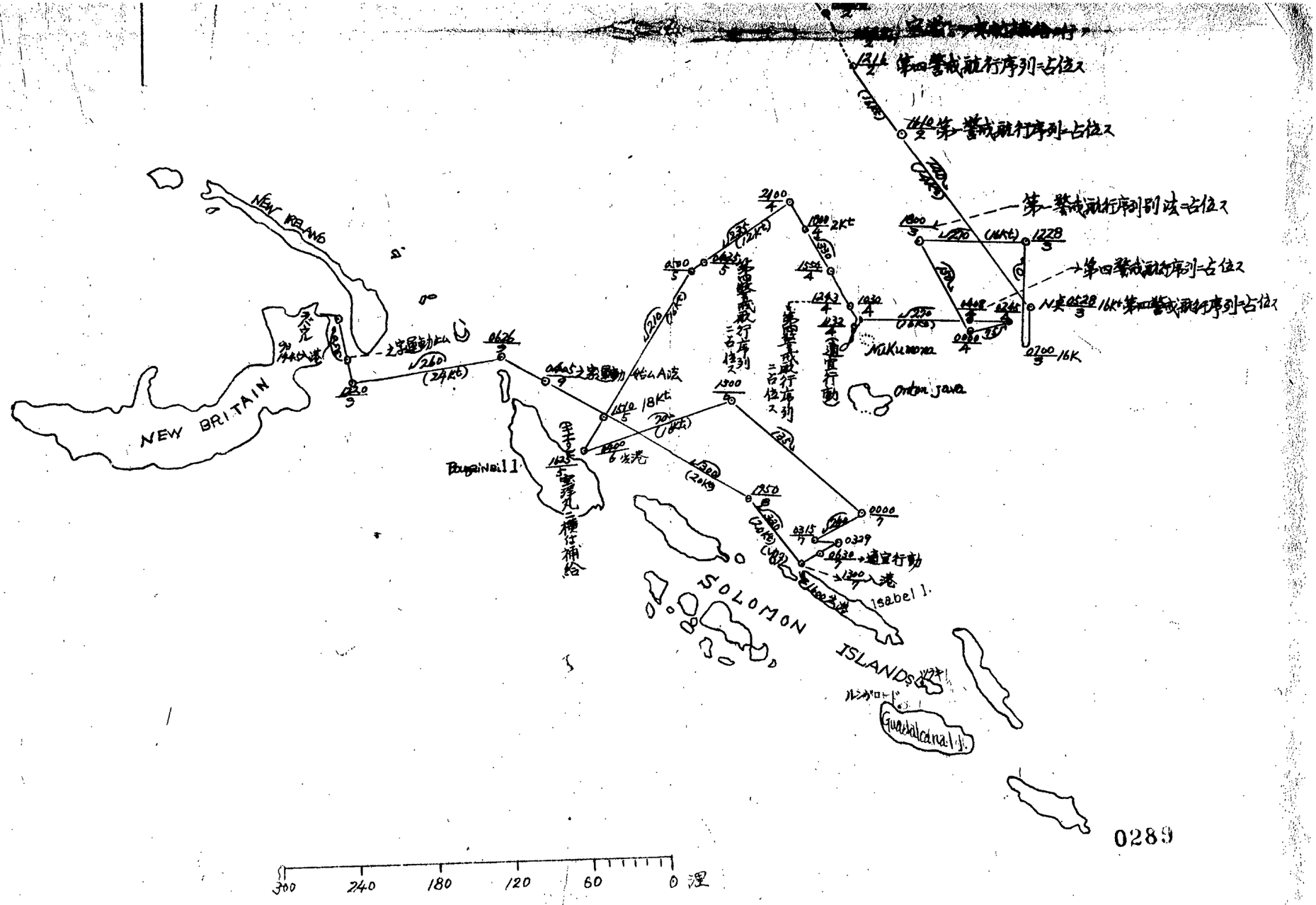
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

SN作戰支援部隊(第十八戰隊)行動圖

自 昭和17年6月30日1000
至 昭和17年7月9日1445
(海軍作戰用圖ト同尺度 1/600000)



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第十八戰隊告示第一六號

昭和十七年七月十四日　旗艦天龍

第十八戰隊司令部

◎辭令

海軍大尉　永松熊一

幕僚事務補佐ヲ命ス（七月十二日第十八戰隊）

（終）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/